

バージョン 6.0.1



インストールの概要および手順

お願い

本書および本書で紹介する製品をご使用になる前に、47 ページの『特記事項および商標』に記載されている情報をお読みください。

本書は、IBM WebSphere Business Monitor 製品 (5724-M24) パージョン 6.0.1、および新しい版で明記されていない限り、以降のすべてのリリースおよびモディフィケーションに適用されます。

本マニュアルに関するご意見やご感想は、次の URL からお送りください。今後の参考にさせていただきます。

<http://www.ibm.com/jp/manuals/main/mail.html>

なお、日本 IBM 発行のマニュアルはインターネット経由でもご購入いただけます。詳しくは

<http://www.ibm.com/jp/manuals/> の「ご注文について」をご覧ください。

(URL は、変更になる場合があります)

お客様の環境によっては、資料中の円記号がバックスラッシュと表示されたり、バックスラッシュが円記号と表示されたりする場合があります。

原 典： WebSphere Business Monitor
Installation overview and instructions
Version 6.0.1

発 行： 日本アイ・ビー・エム株式会社

担 当： ナショナル・ランゲージ・サポート

第1刷 2006.4

この文書では、平成明朝体™W3、平成明朝体™W7、平成明朝体™W9、平成角ゴシック体™W3、平成角ゴシック体™W5、および平成角ゴシック体™W7を使用しています。この(書体*)は、(財)日本規格協会と使用契約を締結し使用しているものです。フォントとして無断複製することは禁止されています。

注* 平成明朝体™W3、平成明朝体™W7、平成明朝体™W9、平成角ゴシック体™W3、
平成角ゴシック体™W5、平成角ゴシック体™W7

© Copyright International Business Machines Corporation 2005, 2006. All rights reserved.

© Copyright IBM Japan 2006

目次

WebSphere Business Monitor のインストール

| | |
|--|----|
| ツール | 1 |
| WebSphere Business Monitor インストール README | 1 |
| WebSphere Business Monitor の前提条件 | 2 |
| WebSphere Business Monitor インストールの説明 | 5 |
| インストール・シナリオ | 5 |
| WebSphere Business Monitor ランチパッド | 11 |
| ランチパッドのパネル | 11 |
| ランチパッドによるソフトウェア前提条件のインストール | 13 |
| データ入力規則 | 15 |
| ランチパッドの実行 | 15 |
| WebSphere Business Monitor データベースの作成 | 16 |
| モニター・サーバー・コンポーネントのインストール | 20 |
| ダッシュボード・クライアント・コンポーネントのインストール | 25 |
| WebSphere Business Monitor のアンインストール | 30 |
| インストール後 | 33 |
| インストール・チェックリスト | 37 |
| インストールのトラブルシューティング | 38 |
| AIX プラットフォームでのランチパッド親ディレクトリーへの許可の割り当て | 38 |
| WebSphere Business Monitor インストール・ログ・ファイルのロケーション | 38 |
| WebSphere Portal インストールとホスト・ショート・ネームの長さ | 39 |

| | |
|---|----|
| 長いホスト名を使用したダッシュボード・クライアントのインストール | 40 |
| WebSphere Application Server の停止時または開始時のエラーが原因で、モニター・サーバーのインストールが失敗する | 41 |
| AIX と CD-ROM デバイスのアクティビティー | 41 |
| その他のデータベースとコンポーネントのインストールに使用されるリポジトリ・データベース・テーブル | 42 |
| インストール後、ランチパッドのチェック・ボックスは選択済みで使用不可になっている必要がある | 43 |
| インストール後の DB2 の再始動 | 43 |
| WebSphere Business Monitor データベースは正常に作成されているが、データベース・テーブルは作成されていない | 43 |
| リモート・デスクトップ使用時にインストールが失敗する | 44 |
| ランチパッド・インストーラーがアクティビティーを中断する | 44 |
| プロファイル、セル、ノード、およびサーバーの各フィールドが事前に入力されていない | 45 |

特記事項および商標 47

WebSphere Business Monitor のインストール

以下の情報は、WebSphere® Business Monitor を正常にインストールするために役立ちます。インストール・プロセスを始める前に、この情報をよく理解する必要があります。

WebSphere Business Monitor インストール README

WebSphere Business Monitor のインストールを開始する前に、インストールを成功させるのに役立つ次の情報をよく理解しておいてください。

WebSphere Business Monitor は、WebSphere Process Server バージョン 6 環境で稼働するクライアント/サーバー Web アプリケーションです。WebSphere Business Monitor は、いくつかのコンポーネントから構成されています。これらのコンポーネントの大半は、WebSphere Application Server のアプリケーション・サーバーにインストールおよびデプロイされるエンタープライズ・アーカイブ (.ear) ファイルまたは Web アーカイブ (.war) ファイルとしてパッケージされています。

以下に、WebSphere Business Monitor のすべてのコンポーネントをリストし、簡単な説明を記載します。

- **モニター・サーバー:** WebSphere Business Monitor のコア・コンポーネントです。このコンポーネントは、Common Event Infrastructure (CEI) からのイベントをコンシュームして、これらのイベントを処理し、測定とその値を計算します。モニター・サーバー・コンポーネントのインストールには、**Adaptive Action Manager** のインストールも含まれます。このコンポーネントは、受信イベントに示されたシチュエーションの結果としてさまざまなタイプのビジネス対応を提供します。モニター・サーバー・コンポーネントと Adaptive Action Manager コンポーネントは、両方とも WebSphere Application Server バージョン 6.0 がホストするエンタープライズ・アプリケーション (.ear) として配布されます。
- **ダッシュボード・クライアント:** WebSphere Business Monitor のもう 1 つのサーバー・コンポーネントで、ダッシュボードと呼ばれるもののためにランタイム環境を提供します。ダッシュボードは、WebSphere Portal 環境で作動するポータル・ページとして実装されます。それぞれのダッシュボードは、1 つ以上のビューから構成できます。ダッシュボード・クライアントは、WebSphere Portal にインストールされ、構成される一連の Web アーカイブ (.war) ファイルとして配布されます。
- **データベース:** イベント処理に必要な情報をモニター・サーバーに提供し、ビューに必要な情報をダッシュボードに提供するデータ・ストレージ・コンポーネントです。4 つのデータベース (状態、ランタイム、ヒストリー、およびリポジトリ) があります。WebSphere Business Monitor のコンポーネントをインストールする前に、これらのデータベースを作成し、構成する必要があります。もう 1 つのデータベースである Action Catalog データベースは、Adaptive Action Manager が使用する情報を保管するのに使用します。
- **モニター管理:** WebSphere Application Server 管理コンソールへの拡張として、プラグインの形式で、WebSphere Business Monitor に管理機能を提供します。

WebSphere Business Monitor のコンポーネントが正常にインストールされると、**WebSphere Business Monitor** のノードを WebSphere Application Server 管理コンソールで使用可能になります。WebSphere Application Server へのログイン情報 (アクセス権) を使用して、このノードから WebSphere Business Monitor のさまざまな機能にアクセスし、管理できます。

WebSphere Business Monitor は、必須データベースを作成し、WebSphere Business Monitor のさまざまなコンポーネントをインストールするプログラムである WebSphere Business Monitor ランチパッドを使用してインストールされます。ランチパッドは、WebSphere Business Monitor の各コンポーネントが必要とするソフトウェア前提条件がインストールされているかどうかを確認し、不足している前提条件があればそれをインストールするよう指示します。

サポートされているインストール・シナリオの詳細については、WebSphere Business Monitor の資料の「*WebSphere Business Monitor* のインストールに関する指示」のセクションにある『インストール・シナリオ』セクションを参照してください。

WebSphere Business Monitor の前提条件

WebSphere Business Monitor のインストールに必要なハードウェア、システム、およびソフトウェアの前提条件。

ハードウェア

WebSphere Business Monitor には、特定のハードウェア構成は必要ありません。ソフトウェア前提条件 (WebSphere Application Server または WebSphere Portal など) のハードウェア前提条件を満たしていれば、WebSphere Business Monitor は機能します。

WebSphere Business Monitor の前提条件について、以下のディスク・スペース要件を考慮してください。

表 1.

| 前提条件 | Windows® | AIX® |
|---|-----------------------------|----------------------------|
| IBM® DB2® UDB Database Server バージョン 8.2.1 | 350 MB | 450 MB |
| DB2 Cube Views™ バージョン 8.2.1 | 17 MB | 17 MB |
| WebSphere Process Server バージョン 6.0.0.1 | 1.3 GB および 600 MB (一時スペース) | 1.3 GB および 600 MB (一時スペース) |
| WebSphere Application Server ND (WAS) バージョン 6.0.1.2 | 990 MB | 970 MB |
| WebSphere Portal v5.1.0.2 | 2.4 GB および 750 MB (一時スペース) | 1.5 GB および 750 MB (一時スペース) |
| WebSphere Portal v5.1.0.2 PTF | 809 MB | 809 MB |
| IBM DB2 Alphablox バージョン 8.3 | 400® MB および 200 MB (一時スペース) | 500 MB および 450 MB (一時スペース) |

WebSphere Business Monitor データベースを保持するマシンについて、必要なデータを保管し、操作するのに十分なメモリーとディスク・スペースがあることを確認する必要があります。

システム

WebSphere Business Monitor をインストールするためのシステム前提条件は次のとおりです。

- Windows 2000 Server、Service Pack 4
- Windows 2000 Advanced Server、Service Pack 4
- Windows Server 2003 Enterprise Edition、Service Pack 1
- Windows Server 2003 Standard Edition、Service Pack 1
- AIX 5.2、メンテナンス・レベル 5200-05
- AIX 5.3、メンテナンス・レベル 5300-02 および APAR IY58143

ソフトウェア

WebSphere Business Monitor バージョン 6.0.1 環境にインストール可能な各コンポーネントに必要なソフトウェア前提条件。

次の表に、必要なソフトウェア、およびソフトウェア・プロダクトを必要とするコンポーネントをリストします。各行はソフトウェア前提条件を示し、各列はその前提条件を必要とするコンポーネントを示しています。

| 前提条件ソフトウェア | モニター・データベース | ダッシュボード・クライアント ⁽¹⁾ | モニター・サーバー ⁽²⁾ | 備考 |
|---|-------------|-------------------------------|--------------------------|---|
| IBM DB2 UDB Database Server バージョン 8.2.1 | ✓ | ✓ | ✓ | Windows プラットフォームの場合、WebSphere Business Monitor ランチパッドを使用して DB2 をインストールした後は、ランチパッドとすべてのコマンド・ウィンドウまたは Explorer ウィンドウを閉じる必要があります。その後ランチパッドを再起動し、残りのインストールを行うことができます。 |
| DB2 Cube Views バージョン 8.2.1 | ✓ | ✓ | | DB2 Cube Views は、ヒストリー・データベースが存在するマシンにインストールする必要があります。 |

| 前提条件ソフトウェア | モニター・データベース | ダッシュボード・クライアント (1) | モニター・サーバー ⁽²⁾ | 備考 |
|---|-------------|-----------------------|--------------------------|--|
| WebSphere Process Server バージョン 6.0 | | | ✓ | WebSphere Business Monitor は WebSphere Process Server 6.0.0 上でも稼働しますが、WebSphere Process Server 6.0.1 上で稼働するアプリケーションのみをサポートします。 |
| WebSphere Application Server ND (WAS) バージョン 6.0.2.3 | | ✓ | | |
| WebSphere Portal バージョン 5.1.0.2 | | ✓ | | |
| IBM DB2 Alphablox バージョン 8.3 | | ✓ | | Windows 2003 システムに IBM DB2 Alphablox をインストールしている場合、アンインストールの前に、ファイル <i>Uninstall IBM DB2 Alphablox8.3.exe</i> の互換性レベルを値「Windows XP」に設定する必要があります。 |

1) ダッシュボード・クライアントのコンポーネントは、前提条件が含まれていないマシン上にのみインストールできます。ダッシュボード・クライアントのコンポーネントとその前提条件は、ランチパッドのみを使用して、以前に前提条件がインストールされていないクリーンなマシン上にインストールする必要があります。ダッシュボード・クライアントのコンポーネントがインストールされる前は、どの前提条件も構成しないでください。ダッシュボード・クライアント・マシンのホスト・ショート・ネームは、8 文字以内に制限されています。

2) モニター・サーバーのコンポーネントは、前提条件が含まれていないマシン上にのみインストールできます。モニター・サーバーのコンポーネントとその前提条件は、ランチパッドのみを使用して、以前に前提条件がインストールされていないクリーンなマシン上にインストールする必要があります。

重要: WebSphere Process Server v6.0.1 がインストールされ、BPEL アプリケーションを実行しているマシンでは、メモリー・リークの問題を解決するのに iFix が必要です。WebSphere Process Server サポートより iFix 番号 311825 を入手する必要があります。詳しくは、IBM サポートを参照してください。

WebSphere Business Monitor インストールの説明

ここでは、WebSphere Business Monitor のインストールを開始する前に理解する必要がある事項を説明するほか、サポートされるインストール・シナリオをリストし、必要なデータベースの作成およびモニター・サーバーとダッシュボード・クライアントのインストールを行うために従う手順について説明します。

インストール・シナリオ

WebSphere Business Monitor バージョン 6.0.1 にはいくつかのコンポーネントと機能があります。それぞれを別々のサーバー・マシン上に単独でインストールすることも、同一のマシン上に 1 つ以上を組み合わせることもできます。

ダッシュボード・クライアントは別のマシンにインストールする必要があります。モニター・サーバー・コンポーネントと同じマシン上にはインストールできません。

組織の必要性に応じて、異なるインストール・シナリオを実行できます。可能な組み合わせについての理解を助けるため、以下のシナリオで、いくつかの一般的なインストールについて説明します。

最初のシナリオ

このシナリオでは、ユーザーは 2 つのマシンを所有しています。モニター・サーバー・マシン、およびモニター・クライアント・マシンです。WebSphere Business Monitor のデータベースは両マシンに分散されています。

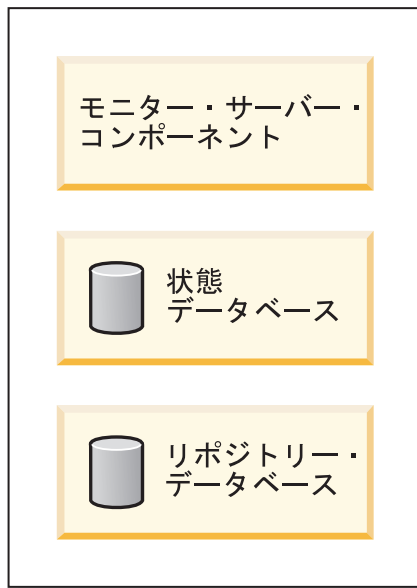
重要: WebSphere Business Monitor は Process Server 6.0.0 で稼働しますが、Process Server 6.0.1 上で稼働するアプリケーションしかサポートしません。

各マシンにインストールされるコンポーネントは以下のとおりです。

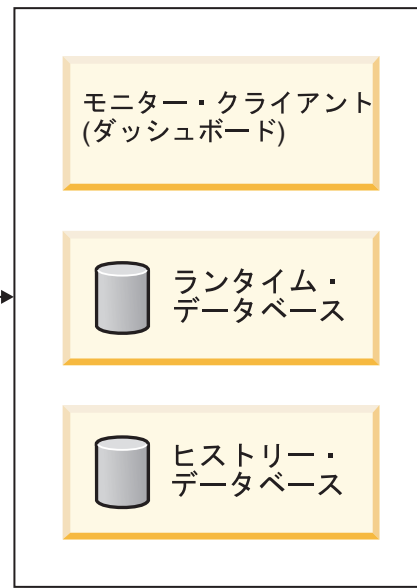
- モニター・サーバー・マシン上にインストールされるコンポーネント:
 - モニター・サーバー
 - 状態データベース
 - リポジトリ・データベース
- モニター・クライアント・マシン上にインストールされるコンポーネント:
 - ダッシュボード・クライアント
 - ランタイム・データベース
 - ヒストリー・データベース

次のダイアグラムは、このシナリオでの各マシンへの分散状況を示しています。

モニター・サーバー・マシン



モニター・クライアント・マシン



以下を考慮する必要があります。

- WebSphere Business Monitor は Process Server 6.0.0 で稼働しますが、Process Server 6.0.1 上で稼働するアプリケーションしかサポートしません。
- コンポーネントをインストールする前に、WebSphere Business Monitor のすべてのデータベースが作成されている必要があります。モニター・サーバー・コンポーネントとダッシュボード・クライアント・コンポーネントのインストールを開始する前に、モニター・サーバー・マシンにリポジトリ・データベースと状態データベースを作成し、モニター・クライアント・マシンにランタイム・データベースとヒストリー・データベースを作成する必要があります。
- クライアント・マシンにランタイム・データベースとヒストリー・データベースを作成する前に、リポジトリ・データベースをそのクライアント・マシンにカタログする必要があります。リポジトリ・データベースをカタログするには、DB2 コマンドまたは DB2 コントロール・センターを使用します。リポジトリ・データベースのカタログに使用される名前は、サーバー・マシン上のリポジトリ・データベースの名前と一致する必要があります。
- クライアント・マシンにランタイム・データベースとヒストリー・データベースが作成された後で、ランタイム・データベースがサーバー・マシンにカタログされる必要があります。ランタイム・データベースをカタログするには、DB2 コマンドまたは DB2 コントロール・センターを使用します。ランタイム・データベースのカタログに使用される名前は、クライアント・マシン上のランタイム・データベースの名前と一致する必要があります。

2 番目のシナリオ

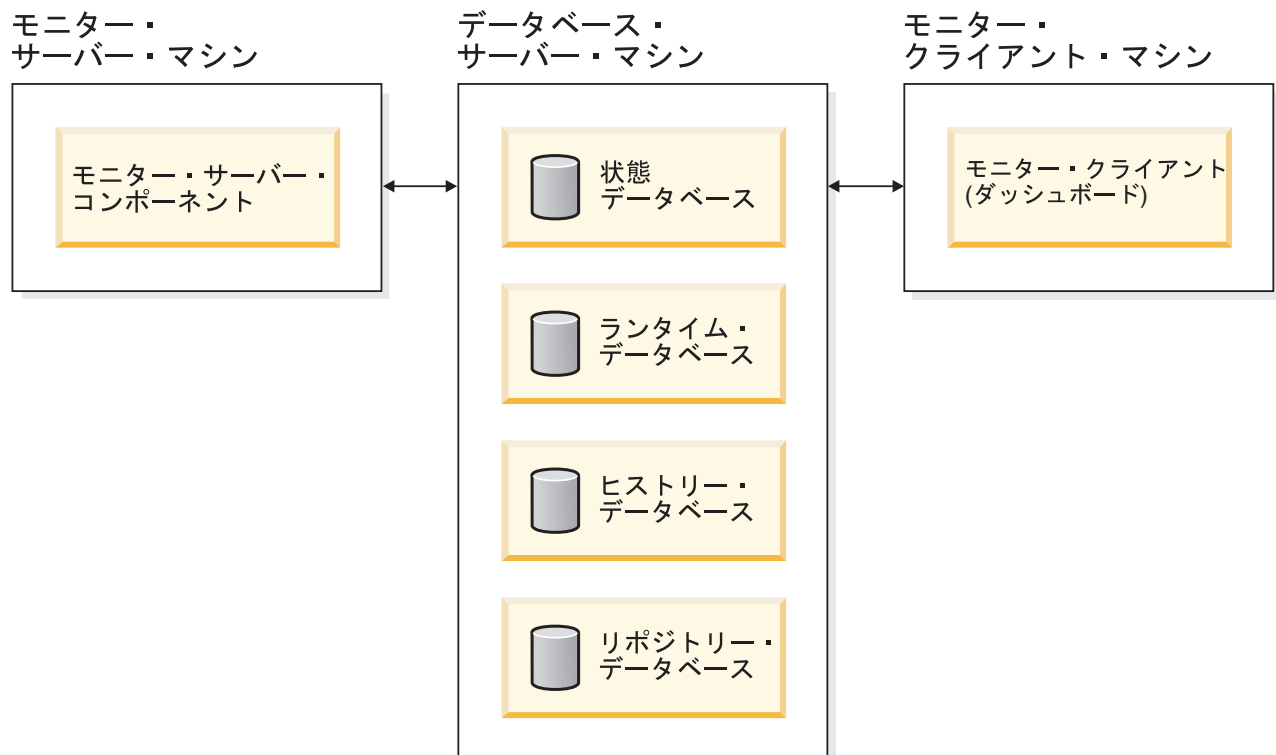
このシナリオでは、ユーザーは 3 つのマシンを所有しています。データベース・サーバー、モニター・サーバー・マシン、およびモニター・クライアント・マシンです。

重要: WebSphere Business Monitor は Process Server 6.0.0 で稼働しますが、Process Server 6.0.1 上で稼働するアプリケーションしかサポートしません。

各マシンにインストールされるコンポーネントは以下のとおりです。

- データベース・サーバー・マシン上にインストールされるコンポーネント:
 - 状態データベース
 - ランタイム・データベース
 - ヒストリー・データベース
 - リポジトリ・データベース
- モニター・サーバー・マシン上にインストールされるコンポーネント:
 - モニター・サーバー: モニター・サーバー・アプリケーション (Adaptive Action Manager を含む) およびモニター・サーバー管理コンソール (モニター・サーバー、Adaptive Action Manager、および Schema Generator を含む) を含む
- モニター・クライアント・マシン上にインストールされるコンポーネント:
 - ダッシュボード・クライアント

次のダイアグラムは、このシナリオでの各マシンへの分散状況を示しています。



以下を考慮する必要があります。

- モニター・サーバー・コンポーネントとダッシュボード・クライアント・コンポーネントをインストールする前に、データベース・サーバー・マシンにすべての WebSphere Business Monitor データベースが作成されている必要があります。

- モニター・サーバー・コンポーネントとダッシュボード・クライアント・コンポーネントをインストールする前に、リポジトリ・データベースがモニター・サーバー・マシンとモニター・クライアント・マシンの両方にカタログされている必要があります。リポジトリ・データベースをカタログするには、DB2 コマンドまたは DB2 コントロール・センターを使用します。リポジトリ・データベースのカタログに使用される名前は、データベース・サーバー・マシン上のリポジトリ・データベースの名前と一致する必要があります。
- モニター・サーバー・コンポーネントをインストールする前に、状態データベースとランタイム・データベースがモニター・サーバー・マシンにカタログされている必要があります。状態データベースとランタイム・データベースをカタログするには、DB2 コマンドまたは DB2 コントロール・センターを使用します。各データベースのカタログに使用される名前は、データベース・サーバー・マシン上の対応するデータベースの名前と一致する必要があります。
- ダッシュボード・クライアント・コンポーネントをインストールする前に、ランタイム・データベースとヒストリー・データベースがモニター・クライアント・マシンにカタログされている必要があります。ランタイム・データベースとヒストリー・データベースをカタログするには、DB2 コマンドまたは DB2 コントロール・センターを使用します。各データベースのカタログに使用される名前は、データベース・サーバー・マシン上の対応するデータベースの名前と一致する必要があります。

3 番目のシナリオ

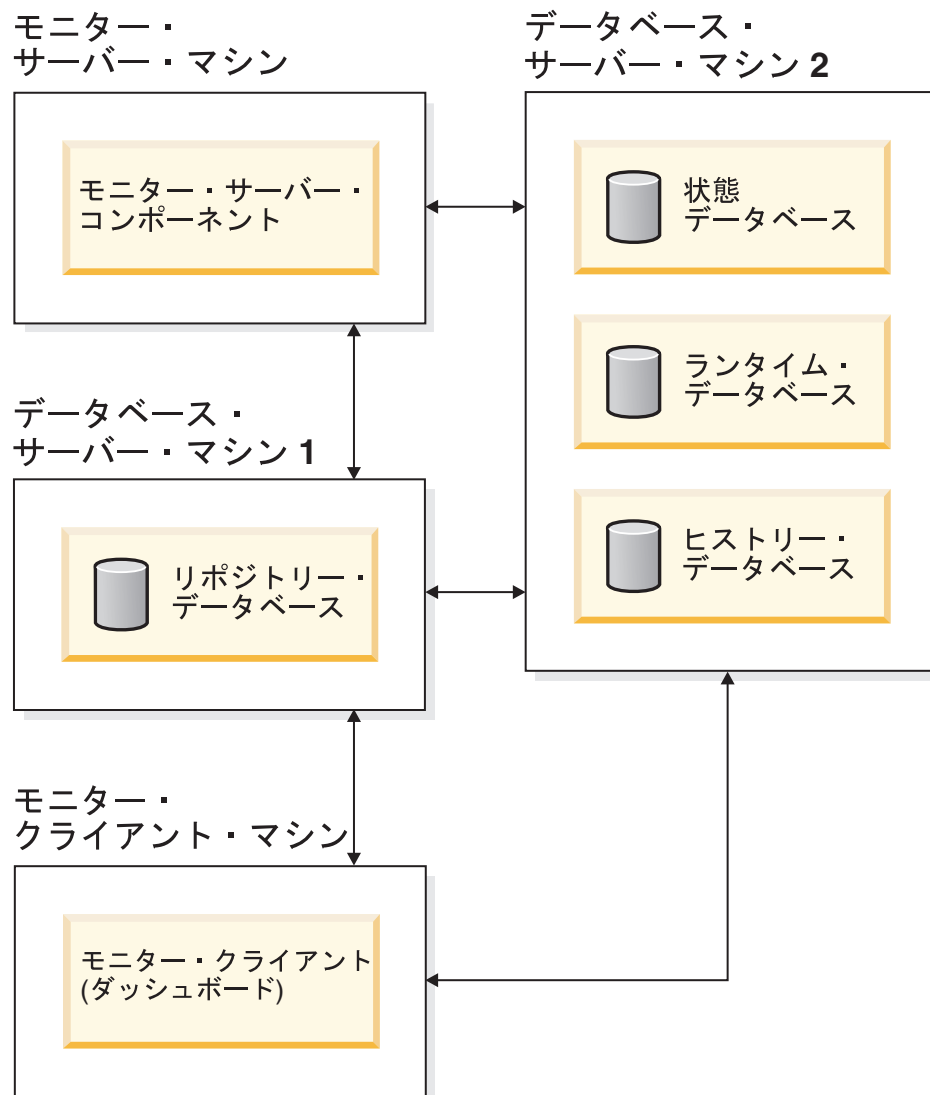
このシナリオでは、ユーザーは 4 つのマシンを所有します。リポジトリ・データベースを含むデータベース・サーバー、状態データベース、ランタイム・データベース、およびヒストリー・データベースを含むデータベース・サーバー、モニター・サーバー・マシン、およびモニター・クライアント・マシンです。

重要: WebSphere Business Monitor は Process Server 6.0.0 で稼働しますが、Process Server 6.0.1 上で稼働するアプリケーションしかサポートしません。

各マシンにインストールされる機能は以下のとおりです。

- 最初のデータベース・サーバー・マシン上にインストールされる機能:
 - リポジトリ・データベース
- 2 番目のデータベース・サーバー・マシン上にインストールされる機能:
 - 状態データベース
 - ランタイム・データベース
 - ヒストリー・データベース
- モニター・サーバー・マシン上にインストールされる機能:
 - モニター・サーバー: モニター・サーバー・アプリケーション (Adaptive Action Manager を含む) およびモニター・サーバー管理コンソール (モニター・サーバー、Adaptive Action Manager、および Schema Generator を含む) を含む
- モニター・クライアント・マシン上にインストールされる機能:
 - ダッシュボード・クライアント

次のダイアグラムは、このシナリオでの複数のマシンへの分散状況を示しています。



以下を考慮する必要があります。

- コンポーネントをインストールする前に、WebSphere Business Monitor のすべてのデータベースが作成されている必要があります。モニター・サーバー・コンポーネントとダッシュボード・クライアント・コンポーネントをインストールする前に、最初のデータベース・サーバー・マシンにリポジトリ・データベースを作成し、2 番目のデータベース・サーバー・マシンに状態データベース、ランタイム・データベース、およびヒストリー・データベースを作成する必要があります。
- 2 番目のデータベース・サーバー・マシンに状態データベース、ランタイム・データベース、およびヒストリー・データベースを作成する前に、最初のデータベース・サーバー・マシンにリポジトリ・データベースが作成されている必要があります。

- 2 番目のデータベース・サーバー・マシンに状態データベース、ランタイム・データベース、およびヒストリー・データベースを作成する前に、リポジトリ・データベースがそのマシンにカタログされている必要があります。また、モニター・サーバー・マシンおよびモニター・クライアント・マシンにモニター・サーバー・コンポーネントおよびダッシュボード・クライアント・コンポーネントをインストールする前に、それらのマシンにリポジトリ・データベースをカタログする必要もあります。リポジトリ・データベースをカタログするには、DB2 コマンドまたは DB2 コントロール・センターを使用します。リポジトリ・データベースのカタログに使用される名前は、最初のデータベース・サーバー・マシン上のリポジトリ・データベースの名前と一致する必要があります。
- モニター・サーバー・コンポーネントをインストールする前に、状態データベースとランタイム・データベースがモニター・サーバー・マシンにカタログされている必要があります。状態データベースとランタイム・データベースをカタログするには、DB2 コマンドまたは DB2 コントロール・センターを使用します。各データベースのカタログに使用される名前は、2 番目のデータベース・サーバー・マシン上の対応するデータベースの名前と一致する必要があります。
- ダッシュボード・クライアント・コンポーネントをインストールする前に、ランタイム・データベースとヒストリー・データベースがモニター・クライアント・マシンにカタログされている必要があります。ランタイム・データベースとヒストリー・データベースをカタログするには、DB2 コマンドまたは DB2 コントロール・センターを使用します。各データベースのカタログに使用される名前は、2 番目のデータベース・サーバー・マシン上の対応するデータベースの名前と一致する必要があります。

注: このシナリオはいくつかの方法で変更できます。代替方法の 1 つは、2 台よりも多いマシン上にデータベースを分散させることです。例えば、各データベースを別々のマシンに分散させることができます。

WebSphere Business Monitor ランチパッド

WebSphere Business Monitor ランチパッドは、必要なデータベースの作成、および WebSphere Business Monitor のさまざまなコンポーネントのインストールに使用するプログラムです。

ランチパッドは、WebSphere Business Monitor コンポーネントが必要とするすべてのソフトウェア前提条件が存在することを確認します。このプログラムを使用して、インストールされていない前提条件をインストールします。

すべての前提条件がインストールされた後、ランチパッドから WebSphere Business Monitor インストーラーが呼び出されます。このインストーラーによって、選択された WebSphere Business Monitor データベースが作成され、選択された WebSphere Business Monitor コンポーネントがインストールされます。

インストーラーを使用する目的は以下のとおりです。

- インストール・ディレクトリーを指定する
- データベース接続情報を指定する
- さまざまな WebSphere Business Monitor データベースを作成する
- さまざまな WebSphere Business Monitor コンポーネントをインストールする

- 製品の存在をオペレーティング・システムに登録する

重要: AIX プラットフォームの場合、ランチパッドを含む圧縮 (.tar) ファイルを抽出した親ディレクトリーには、すべてのユーザーに対する読み取りおよび実行のアクセス権が必要です。詳しくは、『AIX プラットフォームでのランチパッド親ディレクトリーへの許可の割り当て』を参照してください。

前提条件のインストール中に、以降のさまざまなコンポーネントのインストールおよびさまざまなデータベースの作成時に使用する、いくつかのユーザー ID とそれらのパスワードが作成されます。次の表に、それぞれの前提条件で作成されるユーザー ID とパスワードを示します。

それぞれの前提条件で作成されるユーザー ID とパスワード

| 前提条件 | ユーザー ID | パスワード |
|------------------------------|--|---|
| WebSphere Application Server | admin | |
| WebSphere Portal | wpsadmin | wpsadmin |
| DB2 | <ul style="list-style-type: none"> • Windows プラットフォームの場合: db2admin • AIX プラットフォームの場合: db2inst1 | <ul style="list-style-type: none"> • Windows プラットフォームの場合: monPa55w0rd • AIX プラットフォームの場合: monPa55w |
| DB2 Alphablox | admin | password |

ランチパッドのパネル

以下に、ランチパッドおよびインストーラーに含まれているパネルのリストを示します。チェック・マークは、それぞれのコンポーネントで使用可能なパネルを示します。選択した内容によっては、すべてのパネルにアクセスする必要はありません。パネルで必要な情報が既にランチパッドで収集されている場合は、パネルがインストーラーによってスキップされる場合があります。

モニター・コンポーネントと対応するランチパッド・パネル

| | 状態データベース | ランタイム・データベース | ヒストリー・データベース | リポジトリ・データベース | モニター・サーバー | ダッシュボード・クライアント |
|--|----------|--------------|--------------|--------------|-----------|----------------|
| ランチパッド・ウェルカム・ページ (Launchpad Welcome Page) | ✓ | ✓ | ✓ | ✓ | ✓ | ✓ |
| データベースの作成 | ✓ | ✓ | ✓ | ✓ | | |
| 機能の選択 | | | | | ✓ | ✓ |
| ソフトウェア前提条件 | ✓ | ✓ | ✓ | ✓ | ✓ | ✓ |
| 「リポジトリ・データベース情報」パネル* | ✓ | ✓ | ✓ | | ✓ | ✓ |
| 「ソフトウェア・ライセンス契約 (Software License Agreement)」パネル | ✓ | ✓ | ✓ | ✓ | ✓ | ✓ |
| 「宛先 (Destination)」パネル | ✓ | ✓ | ✓ | ✓ | ✓ | ✓ |

モニター・コンポーネントと対応するランチパッド・パネル

| | 状態データ ベース | ランタイム・データ ベース | ヒストリー・ データベース | リポジトリ ・データ ベース | モニター・サー バー | ダッシュボ ード・クラ イアント |
|--|--------------|------------------|------------------|----------------------|---------------|------------------------|
| 「状態データベース作成 (State Database Creation)」パネル | ✓ | | | | | |
| 「ランタイム・データベース作成 (Runtime Database Creation)」パネル | | ✓ | | | | |
| 「ヒストリー・データベース作成 (Historical Database Creation)」パネル | | | ✓ | | | |
| 「リポジトリ・データベース作成 (Repository Database Creation)」パネル | | | | ✓ | | |
| 「WebSphere Application Server 構成 (WebSphere Application Server Configuration)」パネル | | | | | ✓ | |
| 「WebSphere Application Server セキュリティー構成 (WebSphere Application Server Security Configuration)」パネル (保護された WebSphere Application Server 環境でのみ表示) | | | | | ✓ | |
| 「Action Catalog データベース (Action Catalog database)」パネル | | | | | ✓ | |
| 「WebSphere Portal 構成 (WebSphere Portal Configuration)」パネル | | | | | | ✓ |
| 「DB2 Alphablox 構成 (DB2 Alphablox Configuration)」パネル | | | | | | ✓ |
| 「要約 (Summary)」パネル | ✓ | ✓ | ✓ | ✓ | ✓ | ✓ |
| 「進行状況 (Progress)」パネル | ✓ | ✓ | ✓ | ✓ | ✓ | ✓ |
| 「完了」パネル | ✓ | ✓ | ✓ | ✓ | ✓ | ✓ |

* 「リポジトリ・データベース情報 (Repository Database Information)」パネルは、リポジトリ・データベースがリモート・マシン上に存在し、その他のデータベースの作成またはコンポーネントのインストールを行っているそれぞれのマシンにこのリポジトリ・データベースがカタログされている場合にのみ表示されます。

ランチパッドによるソフトウェア前提条件のインストール

WebSphere Business Monitor ランチパッドは、各 WebSphere Business Monitor コンポーネントの前提条件をインストールする場合に使用します。

製品の前提条件のインストールの動作は、次のとおりです。

ランチパッドを使用して前提条件をインストールすることを選択すると、ランチパッドはまず、前提条件インストール・ファイルが、ランチパッド・ファイルが存在するディレクトリー下の特定の場所に存在するかどうか確認します。これは、

WebSphere Business Monitor が Web からダウンロードされる場合、すべての製品前提条件を含む 1 つ以上の .zip ファイルとしてダウンロードされるためです。

例えば、ダウンロードした WebSphere Business Monitor ランチパッドの .zip ファイルを Downloads という名前のディレクトリーに抽出した場合、*launchpad.jar* を含むディレクトリーを見つめます。これは、ルートまたは次のサブディレクトリーにあります。*launchpad.jar* が *Downloads¥CDImage* ディレクトリー内にあれば、ダウンロードされた他のすべての前提条件ファイルは、次の表に示すように、*CDImage* フォルダの下サブディレクトリーに抽出されます。

前提条件のディレクトリー名

| 前提条件 | ディレクトリー名 |
|------------------------------|-----------------------|
| DB2 Universal Database™ | CDImage¥ESE |
| DB2 Cube Views | CDImage¥CUBE |
| WebSphere Process Server | CDImage¥ProcessServer |
| WebSphere Application Server | CDImage¥WAS |
| WebSphere Portal | CDImage¥Portal |
| WebSphere Portal PTF | CDImage¥Portal5102PTF |
| DB2 Alphablox | CDImage¥Alphablox |

前提条件インストール・ファイルが、上記の表に示す適切な場所に存在することをランチパッドが検出すると、ランチパッドは前提条件のインストールを続行します。検出しなかった場合、次のシナリオが実行されます。

- 前提条件をインストールするための複数の CD がある場合 (例えば、Windows の WebSphere Portal に加え、AIX の DB2 Universal Database)、Windows プラットフォームでは次のメッセージのプロンプトが出されます。インストール・メディアは *CD-ROM* にありますか。 AIX プラットフォームの場合は次のメッセージのプロンプトが出されます。インストール・イメージは、*CD* またはローカルでアクセス可能なハード・ディスクのいずれにありますか。
 - 「はい」 (Windows プラットフォームの場合) または「**CD**」 (AIX プラットフォームの場合) をクリックすると、前提条件のインストール・ファイルは *CD* 上にあることを意味します。この場合は、以下ようになります。
 - Windows プラットフォームの場合、*CD* ドライブ名を入力するように求めるプロンプトが出されます。
 - AIX プラットフォームの場合:
 1. *CD* ドライブがアンマウントされます。
 2. 正しい *CD* をロードするように求めるプロンプトが出されます。
 3. *CD* ドライブがマウントされます。
 4. ファイルが \$TEMP ディレクトリーにコピーされます。

このプロセスは、必要な *CD* をすべてコピーするまで繰り返され、その後前提条件のインストールが開始します。

ある時点で誤った *CD* を挿入すると、一時ディレクトリーがクリーンアップされ、前提条件のインストールが終了してランチパッドに戻ります。

その後、CD のコピー先のハード・ディスクの場所を尋ねるプロンプトが出されます。ランチパッドによって、CD の挿入を求めるプロンプトが出され、選択されたハード・ディスク上の一時ディレクトリーへのコピーが行われます。これにより、インストール中にディスクを挿入するようプロンプトが出されることがなくなり、無人インストールを実行できるようになります。次に、前提条件をインストールするドライブ名を求めるプロンプトが出され、インストールが開始します。

前提条件がコピーされた一時ディレクトリーは、前提条件のインストールが完了するとクリーンアップされます (成功か不成功かには関係しません)。

- 「いいえ」 (Windows プラットフォームの場合) をクリックするか、「ハード・ディスク」 (AIX プラットフォームの場合) をクリックすると、前提条件のインストール・ファイルはハード・ディスク上にあることを意味します。この場合、ファイル・ブラウザー・ウィンドウが表示され、次のようにしてハード・ディスクの場所を選択できます。
- Windows プラットフォームでは、インストール・メディアの親ロケーション (上の例では *CDImage* フォルダ) を選択することも、前提条件のフォルダ (例えば、*ESE*、*CUBE* ... など) を直接選択することもできます。
- AIX プラットフォームの場合は、前提条件フォルダ (例えば、*ESE*、*CUBE* など) を選択します。

重要: ファイル選択ダイアログ・ボックスは現在、AIX プラットフォーム上の WebSphere Application Server および WebSphere Process Server ではサポートされておらず、表示されません。これは、AIX プラットフォーム上にハード・ディスクから WebSphere Application Server および WebSphere Process Server をインストールするには、インストール・イメージがデフォルトの場所に存在する必要があることを意味します。

ランチパッドは、その場所に期待されるインストール・ファイルが存在するかどうかチェックし、見つけた場合はインストールを続行します。それ以外の場合は、別のディレクトリーまたはドライブを選択するようプロンプトが出されます。インストールをキャンセルすることもできます。

- Windows 上にインストールする前提条件の CD が 1 つのみの場合、または「ハード・ディスク」 (AIX プラットフォームの場合) をクリックした場合、ファイル・ブラウザー・ウィンドウが表示されて、ハード・ディスクまたは CD-ROM の場所を選択できます。この場合、ランチパッドは CD またはハード・ディスクのどちらからインストールしているかを考慮しません。
- Windows プラットフォームでは、CD-ROM のドライブ名またはインストール・メディアの親ロケーション (上の例では *CDImage* フォルダ) を選択することも、前提条件のフォルダ (例えば、*ESE*、*CUBE*、*ProcessServer* ... など) を直接選択することもできます。
- AIX プラットフォームの場合は、前提条件フォルダ (例えば、*ESE*、*CUBE*、*ProcessServer* など) を選択します。

ランチパッドは、その場所に期待されるインストール・ファイルが存在するかどうかチェックし、見つけた場合はインストールを続行します。それ以外の場合

は、別のディレクトリーまたはドライブを選択するようプロンプトが出されます。インストールをキャンセルすることもできます。

重要: ファイル選択ダイアログ・ボックスは現在、AIX プラットフォーム上の WebSphere Application Server および WebSphere Process Server ではサポートされておらず、表示されません。これは、AIX プラットフォーム上にハード・ディスクから WebSphere Application Server および WebSphere Process Server をインストールするには、インストール・イメージがデフォルトの場所に存在する必要があることを意味します。

データ入力の規則

データの入力、パスの作成、およびフォルダーとファイルの名前付けを実行する際に、特定の要件に注意する必要があります。

インストール処理を開始する前に、「*WebSphere Business Monitor*インストール *README*」を読み、インストール・シナリオを計画することをお勧めします。

- AIX プラットフォームの場合は、パスの記述時に円記号 (¥) の代わりにスラッシュ (/) を使用します。
- AIX プラットフォームの場合、フォルダーとファイルの名前およびパスでは、大/小文字が区別されます。
- インストール中に指定するフォルダーとファイルの名前およびパスには、スペースを含めないでください。(例えば、WebSphere Business Monitor インストール・ディレクトリーは、C:¥IBM¥WebSphere¥Monitor のように、スペースを含めないでください)。
- I/O 障害を回避するため、可能な限り短いパスを使用します。
- WebSphere Business Monitor ランチパッドは、ディレクトリー名内でのアラビア語文字の使用はサポートしません。
- インストールに使用しているユーザー・アカウントが必要なアクセス権をすべて持っていることを確認してください。例えば、WebSphere Portal またはデータベースに対するアクセス権を持っていないユーザー・アカウントを使用すると、インストールは失敗します。

ランチパッドの実行

WebSphere Business Monitor ランチパッドは、製品 CD、またはインターネットからダウンロードした ZIP ファイルの内容を抽出した場所の *Launchpad.bat* という名前のバッチ・ファイルを実行することによって開始されます。

ランチパッドを開始すると、メインウィンドウが表示されます。以下の一般的な手順に従います。

1. ランチパッドのメインウィンドウで、「**ウェルカム**」をクリックしてランチパッドの概要を表示します。このウィンドウはランチパッドの開始時に表示されます。
2. モニター・データベースの作成手順を開始するには、「**データベースの作成**」をクリックします。
3. モニター・コンポーネントのインストール手順を開始するには、「**製品のインストール**」をクリックします。

4. ランチパッドを終了するには、「終了」をクリックします。

WebSphere Business Monitor データベースの作成

WebSphere Business Monitor データベース (状態、ランタイム、ヒストリー、およびリポジトリ) を作成するには、WebSphere Business Monitor ランチパッドを使用します。ランチパッドは、一連のデータベース・スクリプトを実行してデータベースを作成します。

これらのスクリプトには、データベースの作成、構成値によるデータベースの構成、テーブル・スペースの定義、および静的データベース・テーブルおよびインデックスの作成に必要な SQL ステートメントが含まれます。ヒストリー・データベースを作成するには、事前に DB2 Cube Views がインストールされている必要があります。

ランチパッドを使用したインストール中は、いつでも「**進行状況 (Progress)**」パネルに移動してインストールの状況を確認できます。このパネルが表示されている間は、すべてのボタンが使用不可になります。

状態データベース、ランタイム・データベース、およびヒストリー・データベースが作成されると、各データベースに対する以下の情報がリポジトリ・データベースに保管されます。

- データベース名
- データベース・スキーマ
- データベース・タイプ
- データベースが作成されたホスト名
- データベースが作成されたオペレーティング・システム

リポジトリ・データベースは、その他のデータベースが作成される前か、その他のデータベースの作成と同時に、作成される必要があります。

重要: WebSphere Business Monitor データベースを作成する前に、同じデータベース名を使用する場合、以前の WebSphere Business Monitor のインストールに対して作成されたデータベースをすべて除去またはドロップする必要があります。あるいは、以前に作成した WebSphere Business Monitor データベースとは異なるデータベース名を指定できます。

ランチパッドを使用して 1 つ以上のデータベースを作成するには、以下の手順をすべて実行します。

1. ランチパッドのメインウィンドウで、「**データベースの作成**」をクリックします。
2. 「**データベースの作成**」ウィンドウで、作成するそれぞれのデータベースの横のチェック・ボックスを選択してから、「**次へ**」をクリックします。ユーザーは、状態、ランタイム、ヒストリー、およびリポジトリの 4 つのデータベースを作成できます。「**データベース**」オプションの横のチェック・ボックスを選択すると、それ以下のすべてのデータベースが選択されます。
3. ランチパッドは「**ソフトウェア前提条件**」ウィンドウにデータベース前提条件の状況を表示します。状況は以下のとおりです。

- **インストール済み:** データベース前提条件が既にインストール済みであることを示します。
- **未インストール:** データベース前提条件がインストールされていないか、またはサポートされていないバージョンの前提条件がインストールされていることを示します。データベース前提条件 (DB2) がインストールされていない場合は、前提条件の名前をクリックしてセクションを展開してから、「インストール」をクリックしてインストールします。その後、ランチパッドは「ソフトウェア前提条件」ウィンドウから DB2 をインストールします。サポートされていないバージョンの DB2 が既にインストールされている場合は、ランチパッドを終了して手動でソフトウェアをアップグレードするように求めるメッセージが表示されます。

重要: WebSphere Portal PTF のインストール中のエラーを回避するため、DB2 Universal Database をインストールする前に、ホスト・ショート・ネームが 8 文字に制限されていることを確認する必要があります。ホスト・ショート・ネームを変更する必要がある場合は、それを変更し、マシンをリブートしてから、DB2 をインストールする必要があります。

重要: WebSphere Business Monitor ランチパッドを使用して DB2 をインストールした後、以下を実行する必要があります。

- Windows プラットフォームの場合: ランチパッドおよびすべてのコマンド・ウィンドウまたは Explorer ウィンドウを閉じます。何らかの機能をインストールする前に、DB2 が始動していることを確認してください。DB2 を始動するには、「db2start」コマンドを実行します。その後ランチパッドを再起動し、残りのインストールを行うことができます。
 - AIX プラットフォームの場合: 以下を実行します。
 - a. ランチパッドを終了します。
 - b. /.profile を作成して、次の行を追加します。
/home/db2inst1/sqllib/db2profile (注: ピリオドと最初のスラッシュの間にスペースがあります。)
 - c. /.dtprofile の最後の行のコメントを外します。
 - d. ログアウトします。
 - e. 再度ログインします。
 - f. 「db2start」コマンドを実行して、DB2 を始動します。
 - g. ランチパッドを再起動して、残りのインストールを続行します。
4. データベース前提条件がインストールされた後で、「データベース作成の開始」をクリックして、WebSphere Business Monitor インストーラーを開始します。ランチパッドはリポジトリ・データベースの状況を判別します。3 つの可能性があります。
- a. リポジトリ・データベースが現行マシン上に存在する場合、インストールは継続し、インストーラーが開始します。
 - b. リポジトリ・データベースが存在しない場合、「データベースの作成」ウィンドウでリポジトリ・データベースを選択すると、インストールは継続し、インストーラーが開始します。

- c. リポジトリ・データベースが存在しない場合、「**データベースの作成**」ウィンドウでリポジトリ・データベースを選択しないと、次のメッセージが表示されます。

「ファイル CommonInstallParam.tcl にリポジトリ・データベース情報がありません。リポジトリ・データベースがリモート・マシン上に存在する場合は、このマシン上にデータベースがカタログされていることを確認してから、「**OK**」をクリックしてデータベース情報を入力してください。リポジトリ・データベースをこのマシン上に配置する場合は、「**キャンセル**」をクリックして現行のインストールを停止してから、ランチパッドを使用してリポジトリ・データベースを作成してください。」

以下のいずれかを行うことができます。

- 1) リポジトリ・データベースを現行マシン上に存在させる場合は、「**キャンセル**」をクリックしてインストールを停止します。次に、「**戻る**」をクリックして「**データベースの作成**」ウィンドウに戻り、リポジトリ・データベースを選択します。
- 2) リポジトリ・データベースがリモート・マシン上に作成されている場合は、現行マシン上にデータベースがカタログされていることを確認してください。データベースをカタログするには、DB2 コマンドまたは DB2 コントロール・センターを使用する必要があります。次に、「**OK**」をクリックして「**リポジトリ・データベース情報**」ダイアログを表示します。このダイアログで、リポジトリ・データベースに関する以下の情報を入力します。
 - データベース名
 - DB2 管理権限を持っている正当なユーザーのユーザー ID。
 - ユーザー ID のパスワード
 - パスワードの確認

必要な情報を入力し、「**OK**」をクリックしてインストーラーを開始します。「**キャンセル**」をクリックすると、インストールは終了します。

5. インストーラーが開始すると、「**ソフトウェア・ライセンス契約 (Software License Agreement)**」パネルが表示されます。ご使用条件を注意深く読み、「**使用条件の条項に同意します (I accept both the IBM and the non-IBM terms)**」を選択して契約内容を承諾します。「**次へ**」をクリックして続行します。「**使用条件の条項に同意しません (I do not accept the terms in the License Agreement)**」を選択して「**次へ**」をクリックすると、選択の確認を求めるメッセージが表示されます。「**はい**」をクリックすると、インストールは終了します。「**いいえ**」をクリックすると、「**ソフトウェア・ライセンス契約 (Software License Agreement)**」パネルに戻ります。
6. 「**宛先 (Destination)**」パネルで、WebSphere Business Monitor コンポーネントのインストール先を指定します。デフォルトのディレクトリー・パスと名前は、Windows プラットフォームの場合は C:\IBM\WebSphere\Monitor、AIX プラットフォームの場合は /opt/IBM/WebSphere/Monitor です。デフォルトのパスを受け入れるか、または「**参照**」をクリックして他のディレクトリーを選択することによりこのパスを新規ディレクトリーに変更できます。「**次へ**」をクリックして続行します。

7. 状態データベースを作成するには、「状態データベース作成 (State Database Creation)」パネルで、状態データベースの作成に必要な情報を入力します。データベース名とデータベース・スキーマはリポジトリ・データベースに保管されます。以下のフィールドに入力します。

- a. 「名前」フィールドに、データベース名を入力します。
- b. 「スキーマ」フィールドに、データベース・スキーマを入力します。
- c. 「ユーザー ID」フィールドに、DB2 管理権限を持つユーザーのユーザー ID を入力します。
- d. 「パスワード」フィールドに、ユーザー ID のパスワードを入力します。
- e. 「バックアップ・ディレクトリー」フィールドに、データベース・バックアップに使用するディレクトリーのパスを入力します。このディレクトリーを選択するには、「参照」をクリックします。

重要: 「バックアップ・ディレクトリー」のパスと名前には、スペースを含めないでください。これを行わない場合、バックアップは失敗します。

- f. 「テーブル・スペース・ディレクトリー」フィールドに、データベースのテーブル・スペース・ディレクトリーのパスを入力します。このディレクトリーを選択するには、「参照」をクリックします。
- g. 「次へ」をクリックして続行します。

8. ランタイム・データベースを作成するには、「ランタイム・データベース作成 (Runtime Database Creation)」パネルで、ランタイム・データベースの作成に必要な情報を入力します。データベース名とデータベース・スキーマはリポジトリ・データベースに保管されます。以下のフィールドに入力します。

- a. 「名前」フィールドに、データベース名を入力します。
- b. 「スキーマ」フィールドに、データベース・スキーマを入力します。
- c. 「ユーザー ID」フィールドに、DB2 管理権限を持つユーザーのユーザー ID を入力します。
- d. 「パスワード」フィールドに、ユーザー ID のパスワードを入力します。
- e. 「バックアップ・ディレクトリー」フィールドに、データベース・バックアップに使用するディレクトリーのパスを入力します。このディレクトリーを選択するには、「参照」をクリックします。

重要: 「バックアップ・ディレクトリー」のパスと名前には、スペースを含めないでください。これを行わない場合、バックアップは失敗します。

- f. 「テーブル・スペース・ディレクトリー」に、データベースのテーブル・スペース・ディレクトリーのパスを入力します。このディレクトリーを選択するには、「参照」をクリックします。
 - g. 「次へ」をクリックして続行します。
9. ヒストリー・データベースを作成するには、「ヒストリー・データベース作成 (Historical Database Creation)」パネルで、ヒストリー・データベースの作成に必要な情報を入力します。データベース名とデータベース・スキーマはリポジトリ・データベースに保管されます。以下のフィールドに入力します。
- a. 「名前」フィールドに、データベース名を入力します。

- b. 「スキーマ」フィールドに、データベース・スキーマを入力します。
 - c. 「ユーザー ID」フィールドに、DB2 管理権限を持つユーザーのユーザー ID を入力します。
 - d. 「パスワード」フィールドに、ユーザー ID のパスワードを入力します。
 - e. 「次へ」をクリックして続行します。
10. リポジトリ・データベースを作成するには、「リポジトリ・データベース作成 (Repository Database Creation)」パネルで、リポジトリ・データベースの作成に必要な情報を入力します。 リポジトリ・データベースには、その他のデータベース (状態、ランタイム、およびヒストリー) に関する情報が含まれます。以下のフィールドに入力します。
- a. 「名前」フィールドに、データベース名を入力します。
 - b. 「スキーマ」フィールドには何も入力しないでください。データベース・スキーマは既に入力されており、変更できません。
 - c. 「ユーザー ID」フィールドに、DB2 管理権限を持つユーザーのユーザー ID を入力します。
 - d. 「パスワード」フィールドに、ユーザー ID のパスワードを入力します。
 - e. 「次へ」をクリックして続行します。
11. 「要約 (Summary)」パネルに選択内容の要約が表示されます。宛先ディレクトリーの情報、選択された機能とコンポーネントのリスト、およびインストールで使用されるディスク・スペースの合計量が含まれています。「次へ」をクリックして、選択された機能とコンポーネントのインストールを開始します。

ウィザードは、選択された機能のインストールに十分なスペースがあることを確認するためにディスク・スペースをチェックします。選択されたドライブに十分なディスク・スペースがない場合は、警告メッセージでユーザーに通知します。「次へ」ボタンは使用できません。「戻る」をクリックして「要約 (Summary)」パネルに戻ります。指定されたドライブの十分なスペースを解放した後、「次へ」を再度クリックして、選択したコンポーネントのインストールを開始します。十分なスペースを解放できない場合は、「宛先 (Destination)」パネルに再度アクセスして宛先ディレクトリーを変更できます。十分なディスク・スペースがある場合、インストールの進行状況を示す「進行状況 (Progress)」パネルが表示されます。このパネルが表示されている間は、「キャンセル」ボタンのみが使用可能です。「キャンセル」ボタンはデータベースの作成を中止する場合に使用します。

12. インストールが完了したら、「完了」パネルで、「完了」をクリックしてインストーラーを終了します。

モニター・サーバー・コンポーネントのインストール

ランチパッドを使用してモニター・サーバー・コンポーネントをインストールします。

モニター・サーバー・コンポーネントをインストールする前に、以下のデータベースが作成されている必要があります。

- リポジトリ
- 状態

- ランタイム

ランチパッドを使用したインストール中は、いつでも「**進行状況 (Progress)**」パネルに移動してインストールの状況を確認できます。このパネルが表示されている間は、「**キャンセル**」ボタン以外のすべてのボタンが使用不可になります。

重要: モニター・サーバーは、スタンドアロン・ノードにインストールされている必要があります。

ランチパッドを使用してモニター・サーバー・コンポーネントをインストールするには、以下の手順をすべて実行します。

1. ランチパッドのメインウィンドウで、「**製品のインストール**」をクリックします。
2. 「**機能の選択**」ウィンドウで、「**モニター・サーバー**」を選択してモニター・サーバー・コンポーネント (Adaptive Action Manager、Schema Generator、および WebSphere Business Monitor 管理コンソール拡張機能を含む) をインストールします。WebSphere Application Server 拡張機能 (管理コンソール拡張機能) は、モニター・サーバー、Adaptive Action Manager、および Schema Generator の管理に使用されます。コンポーネントが既にシステム上にインストールされている場合、そのコンポーネントは選択済みであり、そのチェック・ボックスは使用不可になっています。

インストールするコンポーネントを選択した後で、「**次へ**」をクリックします。「**ソフトウェア前提条件**」ウィンドウが表示されます。

3. 「**ソフトウェア前提条件**」ウィンドウに、モニター・サーバー・コンポーネントのすべての前提条件が、それらのインストール状況とともに表示されます。状況は以下のいずれかです。

- **インストール済み:** ソフトウェア前提条件が既にインストール済みであることを示します。
- **未インストール:** ソフトウェア前提条件がインストールされていないか、またはサポートされていないバージョンの前提条件がインストールされていることを示します。ソフトウェア前提条件がインストールされていない場合は、前提条件の名前をクリックしてセクションを展開してから、「**インストール**」をクリックしてインストールします。サポートされていないバージョンのソフトウェア前提条件が既にインストールされている場合は、ランチパッドを終了して手動でソフトウェアをアップグレードするかどうかを確認するメッセージが表示されます。

このコンポーネントの前提条件の詳細については、インストール README のセクション『ソフトウェア前提条件』を参照してください。

重要: WebSphere Business Monitor ランチパッドを使用して DB2 をインストールした後、以下を実行する必要があります。

- **Windows プラットフォームの場合:** ランチパッドおよびすべてのコマンド・ウィンドウまたは Explorer ウィンドウを閉じます。何らかの機能をインストールする前に、DB2 が始動していることを確認してください。DB2 を始動するには、「db2start」コマンドを実行します。その後ランチパッドを再起動し、残りのインストールを行うことができます。

- AIX プラットフォームの場合: 以下を実行します。
 - a. ランチパッドを終了します。
 - b. `/.profile` を作成して、次の行を追加します。
`/home/db2inst1/sqllib/db2profile` (注: ピリオドと最初のスラッシュの間にスペースがあります。)
 - c. `/.dtprofile` の最後の行のコメントを外します。
 - d. ログアウトします。
 - e. 再度ログインします。
 - f. 「db2start」 コマンドを実行して、DB2 を始動します。
 - g. ランチパッドを再起動して、残りのインストールを続行します。
- 4. すべての前提条件がインストールされた後で、「**モニター・インストールの開始**」をクリックして、WebSphere Business Monitor インストーラーを開始します。ランチパッドは選択された機能が必要とするデータベースの状況を判別します。いくつかの状況が考えられます。
 - a. すべてのデータベースが現行マシン上に存在する場合、インストールは継続し、インストーラーが開始します。
 - b. リポジトリ・データベースが現行マシン上に存在しない場合は、次のメッセージが表示されます。

「ファイル `CommonInstallParam.tcl` にリポジトリ・データベース情報がありません。リポジトリ・データベースがリモート・マシン上に存在する場合は、このマシン上にデータベースがカタログされていることを確認してから、「OK」をクリックしてデータベース情報を入力してください。リポジトリ・データベースをこのマシン上に配置する場合は、「キャンセル」をクリックして現行のインストールを停止してから、ランチパッドを使用してリポジトリ・データベースを作成してください。」

リポジトリ・データベースがリモート・マシン上に作成されている場合は、現行マシン上にデータベースがカタログされていることを確認してください。データベースをカタログするには、DB2 コマンドまたは DB2 コントロール・センターを使用する必要があります。次に、メッセージに対して「OK」をクリックして「**リポジトリ・データベース情報**」ダイアログを表示します。このダイアログで、リポジトリ・データベースに対する以下の情報を入力できます。

- データベース名。
- データベース管理特権を持っている正当なユーザーのユーザー ID。
- 正当なユーザー ID のパスワード。
- パスワードの確認。

必要な情報を入力し、「OK」をクリックしてインストーラーを開始します。「**リポジトリ・データベース情報**」パネルまたはメッセージで「キャンセル」をクリックすると、インストールは終了します。

- c. リポジトリ・データベースが現行マシン上に存在するか、またはカタログされており、その他のデータベースの情報が格納されている場合、ランチパッドはリポジトリ・データベースから情報を読み取り、インストーラーを開始します。状態データベースとランタイム・データベースがリモート・マ

シン上に作成されている場合は、データベースが現行マシン上にカタログされていることを確認してください。データベースをカタログするには、DB2 コマンドまたは DB2 コントロール・センターを使用する必要があります。各データベースのカタログに使用される名前は、リモート・マシン上の対応するデータベースの名前と一致する必要があります。

- d. リポジトリ・データベースが現行マシン上に存在するか、またはカタログされているものの、その他のデータベースの情報が格納されていない (その他のデータベースが作成されていない) 場合は、欠落している各データベースについてメッセージが表示されます。メッセージは、データベースの情報がリポジトリ・データベースまたは commonInstallParam.tcl のいずれにも存在しないこと、および選択した機能をインストールする前にデータベースを作成する必要があることを通知します。メッセージに対して「OK」をクリックしてインストールをキャンセルします。『WebSphere Business Monitor データベースの作成』に移動して、欠落しているデータベースを作成します。
5. インストーラーが開始すると、「ソフトウェア・ライセンス契約 (Software License Agreement)」パネルが表示されます。ご使用条件を注意深く読み、「使用条件の条項に同意します (I accept both the IBM and the non-IBM terms)」を選択して契約内容を承諾します。次に、「次へ」をクリックして続行します。「使用条件の条項に同意しません (I do not accept the terms in the License Agreement)」を選択して「次へ」をクリックすると、選択の確認を求めるメッセージが表示されます。「はい」をクリックすると、インストールは終了します。「いいえ」をクリックすると、「ソフトウェア・ライセンス契約 (Software License Agreement)」パネルに戻ります。
6. 「宛先 (Destination)」パネルで、コンポーネントのインストール先を指定します。モニター・サーバーをインストールするマシンと同じマシン上に WebSphere Business Monitor のデータベースが定義されている場合、「宛先 (Destination)」パネルは表示されません。デフォルトのディレクトリー・パスと名前は、Windows プラットフォームの場合は C:\IBM\WebSphere\Monitor、AIX プラットフォームの場合は /opt/IBM/WebSphere/Monitor です。デフォルトのパスを受け入れるか、または「参照」をクリックして他のディレクトリーを選択することによりこのパスを新規ディレクトリーに変更できます。「次へ」をクリックして続行します。
7. 「WebSphere Application Server 構成 (Configuration)」パネルで、現行の WebSphere Application Server インストールの構成を入力します。
 - a. 「プロファイル名」フィールドに、指定されたセルを含むプロファイル名を入力します。(このフィールドには、デフォルトで、ランチパッドによりインストーラーに渡された情報が入力されています。必要に応じてこの値を変更できますが、8 文字を超えないようにしてください。)
 - b. 「セル名」フィールドに、指定されたノードを含むセルの名前を入力します。(このフィールドには、デフォルトで、ランチパッドによりインストーラーに渡された情報が入力されています。必要に応じてこの値を変更できますが、18 文字を超えないようにしてください。)
 - c. 「ノード名」フィールドに、指定されたアプリケーション・サーバーが存在するノードの名前を入力します。(このフィールドには、デフォルトで、ランチパッドによりインストーラーに渡された情報が入力されています。必要に応じてこの値を変更できますが、8 文字を超えないようにしてください。)

- d. 「**サーバー名**」フィールドに、選択された 1 つ以上のコンポーネントをインストールするアプリケーション・サーバーの名前を入力します。(このフィールドには、デフォルトで、ランチパッドによりインストーラーに渡された情報が入力されています。必要に応じてこの値を変更できます。)
 - e. 「**生成ディレクトリー**」フィールドに、ビジネス指標モデル のインポートに WebSphere Business Monitor 管理コンソールが使用される場合に使用される生成ディレクトリーの名前を入力します。
 - f. 「**次へ**」をクリックして続行します。
8. モニター・サーバーを、WebSphere Application Server セキュリティーが使用可能なシステムにインストールする場合、「**WebSphere Application Server セキュリティー構成 (Security Configuration)**」という追加のパネルが表示されます。このパネルで、以下のフィールドに入力します。
- a. 「**ユーザー ID**」フィールドに、WebSphere Application Server を開始および停止する権限を持つ正当なユーザーのユーザー ID を入力します。ユーザー ID は、WebSphere Application Server 管理コンソールを使用して WebSphere Application Server セキュリティーを使用可能にするときに定義されます。
 - b. 「**パスワード**」フィールドに、入力したユーザー ID のパスワードを入力します。
 - c. 「**パスワードの確認**」フィールドに、確認のためにパスワードを再入力します。
 - d. 「**次へ**」をクリックして続行します。

注: モニター・サーバーをインストールした後に WebSphere Application Server グローバル・セキュリティを使用可能にすることを計画している場合は、グローバル・セキュリティを使用可能にする前に、正当なユーザー ID とパスワードで認証別名を更新する必要があります。

9. 「**Action Catalog データベース (Action Catalog database)**」パネルで、Action Catalog と呼ばれる Adaptive Action Manager データベースのデータベース情報を入力します。Action Catalog データベースは、ローカル・マシン上へのモニター・サーバーのインストール中に作成されます。以下のフィールドに入力します。
- a. 「**名前**」フィールドに、Action Catalog データベース名を入力します。
 - b. 「**ホスト名**」フィールドに、Action Catalog データベースのホスト名または IP アドレスを入力します。Action Catalog データベースはローカル・マシン上に作成されるため、このフィールドの値はローカル・ホスト名または IP アドレスにします。
 - c. 「**ポート番号**」フィールドに、Action Catalog データベースのポート番号を入力します。
 - d. 「**ユーザー ID**」フィールドに、DB2 管理権限を持つ正当なユーザーのユーザー ID を入力します。
 - e. 「**パスワード**」フィールドに、ユーザー ID のパスワードを入力します。
 - f. 「**次へ**」をクリックして続行します。
10. 「**要約 (Summary)**」パネルに選択内容の要約が表示されます。これには、宛先ディレクトリーの情報、選択されたコンポーネントのリスト、およびインストール

ールで使用するディスク・スペースの合計量が含まれます。「次へ」をクリックして、モニター・サーバー・コンポーネントのインストールを開始します。

ウィザードは、モニター・サーバー・コンポーネントのインストールに十分なスペースがあることを確認するためにディスク・スペースをチェックします。選択されたドライブに十分なディスク・スペースがない場合は、警告メッセージでユーザーに通知します。「次へ」ボタンは使用できません。「戻る」をクリックして「要約 (Summary)」パネルに戻ります。指定されたドライブの十分なスペースを解放した後、「次へ」を再度クリックして、選択したコンポーネントのインストールを開始します。十分なスペースを解放できない場合は、「宛先 (Destination)」パネルに再度アクセスして宛先ディレクトリーを変更できます。十分なディスク・スペースがある場合、インストールの進行状況を示す「進行状況 (Progress)」パネルが表示されます。このパネルが表示されている間は、「キャンセル」ボタンのみが使用可能です。「キャンセル」ボタンはモニター・サーバーのインストールを中止する場合に使用します。

11. インストールが完了したら、「完了」パネルで、「完了」をクリックしてインストーラーを終了します。

ダッシュボード・クライアント・コンポーネントのインストール

ランチパッドを使用してダッシュボード・クライアント・コンポーネントをインストールします。

WebSphere Business Monitor インストール・プロセスは、必要なダッシュボードやビューを作成せずに、ダッシュボード・クライアント・コンポーネントをインストールします。インストールの完了後に、これらのビューを WebSphere Portal に作成する必要があります。

重要: ダッシュボード・クライアント・コンポーネントは、前提条件が含まれていないマシン上にのみインストールできます。ダッシュボード・クライアント・コンポーネントとその前提条件は、以前に前提条件がインストールされていないマシン上にランチパッドのみを使用してインストールする必要があります。ダッシュボード・クライアント・コンポーネントをインストールするまでは、どの前提条件も構成しないください。

ランチパッドを使用したインストール中は、いつでも「進行状況 (Progress)」パネルに移動してインストールの状況を確認できます。このパネルが表示されている間は、すべてのボタンが使用不可になります。

ダッシュボード・クライアント・コンポーネントをインストールする前に、以下のデータベースが作成されている必要があります。

- リポジトリ
- ランタイム
- ヒストリー

ランチパッドを使用してダッシュボード・クライアント・コンポーネントをインストールするには、以下の手順をすべて実行します。

1. ランチパッドのメインウィンドウで、「製品のインストール」をクリックします。
2. 「機能の選択」ウィンドウで、ダッシュボード・クライアント・コンポーネントを選択してから、「次へ」をクリックします。「ソフトウェア前提条件」ウィンドウが表示されます。
3. 「ソフトウェア前提条件」ウィンドウに、ダッシュボード・クライアント・コンポーネントのすべての前提条件が、それらのインストール状況とともに表示されます。状況は以下のいずれかです。

- **インストール済み:** ソフトウェア前提条件が既にインストール済みであることを示します。
- **未インストール:** ソフトウェア前提条件がインストールされていないか、またはサポートされていないバージョンの前提条件がインストールされていることを示します。ソフトウェア前提条件がインストールされていない場合は、前提条件の名前をクリックしてセクションを展開してから、「インストール」をクリックしてインストールします。サポートされていないバージョンのソフトウェア前提条件が既にインストールされている場合は、ランチパッドを終了して手動でソフトウェアをアップグレードするかどうかを確認するメッセージが表示されます。

このコンポーネントの前提条件の詳細については、インストール README のセクション『ソフトウェア前提条件』を参照してください。

重要: WebSphere Portal PTF のインストール中のエラーを回避するため、DB2 Universal Database をインストールする前に、ホスト・ショート・ネームが 8 文字に制限されていることを確認する必要があります。ホスト・ショート・ネームを変更する必要がある場合は、それを変更し、マシンをリブートしてから、DB2 をインストールする必要があります。これより長いホスト名を使用する必要がある場合、この問題を解決する方法の詳細については、『長いホスト名を使用したダッシュボード・クライアントのインストール』を参照してください。

重要: WebSphere Business Monitor ランチパッドを使用して DB2 をインストールした後、以下を実行する必要があります。

- Windows プラットフォームの場合: ランチパッドおよびすべてのコマンド・ウィンドウまたは Explorer ウィンドウを閉じます。何らかの機能をインストールする前に、DB2 が始動していることを確認してください。DB2 を始動するには、「db2start」コマンドを実行します。その後ランチパッドを再起動し、残りのインストールを行うことができます。
- AIX プラットフォームの場合: 以下を実行します。
 - a. ランチパッドを終了します。
 - b. `/.profile` を作成して、次の行を追加します。
`/home/db2inst1/sqllib/db2profile` (注: ピリオドと最初のスラッシュの間にスペースがあります。)
 - c. `/.dtprofile` の最後の行のコメントを外します。
 - d. ログアウトします。
 - e. 再度ログインします。

- f. 「db2start」 コマンドを実行して、DB2 を始動します。
 - g. ランチパッドを再起動して、残りのインストールを続行します。
4. すべての前提条件がインストールされた後で、「**モニター・インストールの開始**」をクリックして、WebSphere Business Monitor インストーラーを開始します。ランチパッドは選択された機能に必要なデータベースの状況を判別します。いくつかの状況が考えられます。
- a. すべてのデータベースが現行マシン上に存在する場合、インストールは継続し、インストーラーが開始します。
 - b. リポジトリ・データベースが現行マシン上に存在しない場合は、次のメッセージが表示されます。

「ファイル CommonInstallParam.tcl にリポジトリ・データベース情報がありません。リポジトリ・データベースがリモート・マシン上に存在する場合は、このマシン上にデータベースがカタログされていることを確認してから、「**OK**」をクリックしてデータベース情報を入力してください。リポジトリ・データベースをこのマシン上に配置する場合は、「**キャンセル**」をクリックして現行のインストールを停止してから、ランチパッドを使用してリポジトリ・データベースを作成してください。」

リポジトリ・データベースがリモート・マシン上に作成されている場合は、現行マシン上にデータベースがカタログされていることを確認してください。データベースをカタログするには、DB2 コマンドまたは DB2 コントロール・センターを使用する必要があります。次に、メッセージに対して「**OK**」をクリックして「**リポジトリ・データベース情報**」ダイアログを表示します。このダイアログで、リポジトリ・データベースに対する以下の情報を入力できます。

- データベース名
- 管理特権を持っている正当なユーザーのユーザー ID
- ユーザー ID のパスワード
- パスワードの確認

必要な情報を入力し、「**OK**」をクリックしてインストーラーを開始します。「**リポジトリ・データベース情報**」パネルまたはメッセージで「**キャンセル**」をクリックすると、インストールは終了します。

- c. リポジトリ・データベースが現行マシン上に存在するか、またはカタログされており、その他のデータベースの情報が格納されている場合、ランチパッドはリポジトリ・データベースから情報を読み取り、インストーラーが開始します。ランタイム・データベースとヒストリー・データベースがリモート・マシン上に作成されている場合は、データベースが現行マシン上にカタログされていることを確認してください。データベースをカタログするには、DB2 コマンドまたは DB2 コントロール・センターを使用する必要があります。各データベースのカタログに使用される名前は、リモート・マシン上の対応するデータベースの名前と一致する必要があります。
- d. リポジトリ・データベースが現行マシン上に存在するか、またはカタログされているものの、その他のデータベースの情報が格納されていない (その他のデータベースが作成されていない) 場合は、欠落している各データベースについてメッセージが表示されます。メッセージでは、データベースの情

報がリポジトリ・データベースまたは commonInstallParam.tcl のいずれにも存在しないこと、および選択した機能をインストールする前にデータベースを作成する必要があることが通知されます。メッセージに対して「OK」をクリックしてインストールをキャンセルします。『データベースの作成 WebSphere Business Monitor』に移動して、欠落しているデータベースを作成します。

5. インストーラーが開始すると、「ソフトウェア・ライセンス契約 (Software License Agreement)」パネルが表示されます。ご使用条件を注意深く読み、「使用条件の条項に同意します (I accept both the IBM and the non-IBM terms)」を選択して契約内容を承諾します。次に、「次へ」をクリックして続行します。「使用条件の条項に同意しません (I do not accept the terms in the License Agreement)」を選択して「次へ」をクリックすると、選択の確認を求めるメッセージが表示されます。「はい」をクリックすると、インストールは終了します。「いいえ」をクリックすると、「ソフトウェア・ライセンス契約 (Software License Agreement)」パネルに戻ります。
6. 「宛先 (Destination)」パネルで、WebSphere Business Monitor コンポーネントのインストール先を指定します。ダッシュボード・クライアントをインストールするマシンと同じマシン上に WebSphere Business Monitor のデータベースが定義されている場合は、「宛先 (Destination)」パネルは表示されません。デフォルトのディレクトリ・パスと名前は、Windowsプラットフォームの場合は C:\IBM\WebSphere\Monitor、AIX® プラットフォームの場合は /opt/IBM/WebSphere/Monitor です。デフォルトのパスを受け入れるか、または「参照」をクリックして他のディレクトリを選択することによりこのパスを新規ディレクトリに変更できます。「次へ」をクリックして続行します。
7. WebSphere Portal「情報 (Information)」パネルで、ダッシュボード・クライアント・コンポーネントをインストールする WebSphere Portal サーバーに関する必要な情報を入力します。
 - a. 「プロファイル名」フィールドに、指定されたセルを含むプロファイル名を入力するか、または「参照」をクリックしてプロファイルを選択します。(このフィールドには、デフォルトで、ランチパッドによりインストーラーに渡された情報が入力されています。必要に応じてこの値を変更できますが、8 文字を超えないようにしてください。)
 - b. 「セル名」フィールドに、指定されたノードを含むセル名を入力します。(このフィールドには、デフォルトで、ランチパッドによりインストーラーに渡された情報が入力されています。必要に応じてこの値を変更できますが、18 文字を超えないようにしてください。)
 - c. 「ノード名」フィールドに、指定されたアプリケーション・サーバーが存在するノード名を入力します。(このフィールドには、デフォルトで、ランチパッドによりインストーラーに渡された情報が入力されています。必要に応じてこの値を変更できますが、8 文字を超えないようにしてください。)
 - d. 「サーバー名」フィールドに、WebSphere Portal がインストールされているアプリケーション・サーバー名を入力します。(このフィールドには、デフォルトで、ランチパッドによりインストーラーに渡された情報が入力されています。必要に応じてこの値を変更できます。)
 - e. 「ポータル・ユーザー ID」フィールドに、正当なユーザーのユーザー ID を入力します。

- f. 「パスワード」フィールドに、ユーザー ID のパスワードを入力します。
 - g. 「構成ホスト名」フィールドに、WebSphere Portal アプリケーション・サーバーが作成されたホスト名を入力します。
 - h. 「構成ポート」フィールドに、WebSphere Portal 構成ユーティリティーへのアクセスに使用されるポート番号を入力します。
 - i. 「プロセス・サーバー (BPEL) ホスト名」フィールドに、WebSphere Process Server 6.0.1 がインストールされているマシンのホスト名を入力します。
 - j. 「プロセス・サーバー (BPEL) ブートストラップ・ポート」フィールドに、WebSphere Process Server (BPEL) マシン上のブートストラップ・ポートを入力します。
 - k. 「次へ」をクリックして続行します。
8. 「DB2 Alphablox 構成 (Configuration)」パネルで、DB2 Alphablox に関する以下の情報を入力します。
- a. 「インストール・ディレクトリー」フィールドに、DB2 Alphablox インストール・ディレクトリーの名前を入力するか、または「参照」をクリックしてディレクトリーを選択します。(このフィールドには、デフォルトで、ランチパッドによりインストーラーに渡された情報が入力されています。必要に応じてこの値を変更できます。)
 - b. 「ユーザー ID」フィールドに、DB2 Alphablox の正当なユーザーのユーザー ID を入力します。(このフィールドには、デフォルトで、ランチパッドによりインストーラーに渡された情報が入力されています。必要に応じてこの値を変更できます。)
 - c. 「パスワード」フィールドに、ユーザー ID のパスワードを入力します。(このフィールドには、デフォルトで、ランチパッドによりインストーラーに渡された情報が入力されています。必要に応じてこの値を変更できます。)
 - d. 「ホスト名」フィールドに、DB2 Alphablox がインストールされているホスト名を入力します。(このフィールドには、デフォルトで、ランチパッドによりインストーラーに渡された情報が入力されています。必要に応じてこの値を変更できます。)
 - e. 「Telnet ポート」フィールドに、DB2 Alphablox Telnet ユーティリティーへのアクセスに使用されるポート番号を入力します。(このフィールドには、デフォルトで、ランチパッドによりインストーラーに渡された情報が入力されています。必要に応じてこの値を変更できます。)
 - f. WebSphere Business Monitor テーマを AlphaBlox のデフォルトのテーマとして設定するには、「**WebSphere Business Monitor をDB2 Alphablox のデフォルトのテーマとして設定**」チェック・ボックスを選択します。
 - g. WebSphere Business Monitor テーマを WebSphere Portal のデフォルトのテーマとして設定するには、「**WebSphere Business Monitor を WebSphere Portal のデフォルトのテーマとして設定**」チェック・ボックスを選択します。
 - h. WebSphere Portal へのログイン時に、デフォルトの WebSphere Business Monitor ウェルカム・ページに代わって WebSphere Portal ウェルカム・ページを使用する場合は、「**WebSphere Business Monitor ウェルカム・ページを WebSphere Portal に使用**」チェック・ボックスを選択します。
 - i. 「次へ」をクリックして続行します。

9. 「要約 (Summary)」パネルに選択内容の要約が表示されます。これには、宛先ディレクトリーの情報、選択されたコンポーネントのリスト、およびインストールで使用されるディスク・スペースの合計量が含まれます。「次へ」をクリックして、ダッシュボード・クライアント・コンポーネントのインストールを開始します。

ウィザードは、ダッシュボード・クライアント・コンポーネントのインストールに十分なスペースがあることを確認するためにディスク・スペースをチェックします。選択されたドライブに十分なディスク・スペースがない場合は、警告メッセージでユーザーに通知します。「次へ」ボタンは使用できません。

「戻る」をクリックして「要約 (Summary)」パネルに戻ります。指定されたドライブの十分なスペースを解放した後、「次へ」を再度クリックして、選択したコンポーネントのインストールを開始します。十分なスペースを解放できない場合は、「宛先 (Destination)」パネルに再度アクセスして宛先ディレクトリーを変更できます。十分なディスク・スペースがある場合、インストールの進行状況を示す「進行状況 (Progress)」パネルが表示されます。このパネルが表示されている間は、「キャンセル」ボタンのみが使用可能です。「キャンセル」ボタンはダッシュボード・クライアントのインストールを中止する場合に使用します。

10. インストールが完了したら、「完了」パネルで、「完了」をクリックしてインストーラーを終了します。

注: ダッシュボード・クライアントのインストールが完了すると、WebSphere Portal は停止状態になります。開始されたままである場合は、インストールされたダッシュボード・ポータル・ページを表示する前に、必ず WebSphere Portal を停止してから再始動してください。

注: **wbmonitor** テーマが DB2 Alphablox に適用されていることを確認してください。DB2 Alphablox テーマを選択するには、DB2 Alphablox をオープンし、「管理」→「一般プロパティー」→「システム」を選択し、「デフォルト HTML クライアント・テーマ」リストから「**wbmonitor**」を選択し、「保存」をクリックします。

WebSphere Business Monitor のアンインストール

ランチパッドを使用して以前にインストールされた WebSphere Business Monitor のコンポーネントをアンインストールするには、アンインストール手順を使用します。

アンインストール手順では、インストール手順によって作成されたすべての WebSphere Application Server リソース (インストール・ディレクトリーおよび各種ログ・ファイルの一部を除く) を削除します。WebSphere Business Monitor のデータベースのアンインストール手順では、これらのデータベースの作成に使用されたファイルのみを削除し、データベースは除去 (ドロップ) しません。その後、必要に応じて、DB2 コントロール・センターまたは DB2 コマンドを使用して、手動でデータベースを除去 (ドロップ) できます。

重要: WebSphere Business Monitor のアンインストールでは、作成された WebSphere Business Monitor データベースは除去またはドロップしません。同じデータベース名を使用する場合は、WebSphere Business Monitor をイン

ストールして WebSphere Business Monitor データベースを作成する前に、以前の WebSphere Business Monitor のインストールにおいて作成されたデータベースをすべて除去またはドロップする必要があります。あるいは、以前に作成した WebSphere Business Monitor データベースとは異なるデータベース名を指定できます。

WebSphere Business Monitor 、およびそのインストール済み機能とデータベースをアンインストールするには、以下の手順をすべて実行します。

注: 「プログラムの追加と削除」ツールに制御が戻らない場合は、稼働中の WebSphere Application Serverが原因である可能性があります。アンインストール手順の一部によってこのサーバーが始動され、現在でも稼働中である可能性があります。WebSphere Application Server 始動メニューを使用して、*Server1* アプリケーション・サーバーを停止します。

注: モニター・サーバー・マシン上またはダッシュボード・クライアント・マシン上でセキュリティーが使用可能に設定されている場合は、アンインストールを続行する前に使用不可に設定します。

1. `<Monitor_Home_Dir>\install\monsrvr\configuration\crosscell`の下に格納された `unconfigureMonitorCrossCell` スクリプトを実行して、SI バス構成を除去します。

注: BPEL Process Server 上で `unconfigureCrossCell` スクリプトを実行してください。

2. 以下のように、WebSphere Business Monitor アンインストーラー・プログラムを実行します。
 - a. Windows プラットフォームの場合、「コントロール パネル」の「プログラムの追加と削除」アイコンを使用します。「現在インストールされているプログラム」リストで、「IBM WebSphere Business Monitor V6.0」を探し、「変更と削除」をクリックします。アンインストーラーが開始されます。
 - b. AIX プラットフォームの場合、WebSphere Business Monitor インストール・ディレクトリー下の `_uninst` フォルダーにある `uninstaller.bin` プログラムを実行します。アンインストーラーが開始されます。

注: JVM – AIX では、アンインストーラーが使用する JVM はインストーラーが使用した JVM と同じです。そのため、アンインストール時には、インストール時に使用した JVM が同じロケーションにある必要があります。

3. WebSphere Business Monitor アンインストーラーの「ウェルカム」ページで、「次へ」をクリックします。
4. 「インストール済み機能 (Installed Features)」パネルで、アンインストールする機能を選択し、「次へ」をクリックします。アンインストーラーが、選択された機能の除去を開始します。
5. 「進行状況 (Progress)」パネルの進行状況表示バーでアンインストールの状況が表示されます。このパネルが表示されている間は、すべてのボタンが使用不可になります。
6. アンインストールが完了したら、「完了」パネルで、「完了」をクリックして終了します。
7. モニター・サーバー・コンポーネントをアンインストールする場合は、アンインストールの完了後、次のディレクトリーを削除する必要があります。

<WPS_Profile_Dir>%databases%com.ibm.ws.sib%<Node_Name>.server1-MONITOR.<Cell_Name>.Bus

ここで、

- <WPS_Profile_Dir> は WebSphere Process Server プロファイルの場所です。デフォルトは C:\IBM\WebSphere\ProcServer\profiles\monitor です。
- <Node_Name> and <Cell_Name> は、それぞれ、モニター・サーバー・コンポーネントがインストールされていたノードおよびセルの WebSphere Process Server 名です。

8. %temp% ディレクトリー内のログ・ファイルを除去します。
9. インストールされている前提条件をアンインストールします。前提条件をアンインストールするときには、次の点を考慮してください。

前提条件のアンインストール

WebSphere Business Monitor をアンインストールした後、ランチパッドを使用してインストールされたすべての前提条件をアンインストールする必要があります。

最も基本的な操作としては、Windows プラットフォームの場合、「コントロールパネル」の「プログラムの追加と削除」アイコンを使用します。「現在インストールされているプログラム」のリストで、WebSphere Business Monitor の各前提条件を、これらの製品のアンインストールに関連する既存の資料に基づいて「変更」または「削除」します。AIX プラットフォームの場合、これらの各製品のアンインストールに関連する既存の資料を参照してください。

前提条件をアンインストールするための、以下の重要な手順を考慮してください。

1. WebSphere Process Server をアンインストールした後、DB2 を使用して、CEI データベース **Event** および **WPRCSDB** をドロップします。ランチパッドを使用して WebSphere Process Server を再インストールする前に、
C:\IBM\WebSphere\ProcServer (ランチパッドのデフォルトの WebSphere Process Server ディレクトリー) にある WebSphere Process Server ルート・ディレクトリーを削除する必要があります。また、システムの %temp% ディレクトリーから WebSphere Process Server インストール・ログ・ファイルを除去する必要もあります。
2. WebSphere Application Server をアンインストールした後、ランチパッドを使用して再インストールする前に、WebSphere Application Server ホーム・ディレクトリーとインストール・ログ・ファイルを次の場所から削除する必要があります。C:\IBM\WebSphere\AppServer (ランチパッドのデフォルトの WebSphere Application Server ディレクトリー) %temp%*.*
3. WebSphere Portal をアンインストールした後、ランチパッドを使用して再インストールする前に、WebSphere Portal ホーム・ディレクトリーとインストール・ログ・ファイルを次の場所から削除する必要があります。
C:\IBM\WebSphere\PortalServer (ランチパッドのデフォルトの WebSphere Portal ディレクトリー) %temp%*.*

インストール後

WebSphere Business Monitor を正常にインストールした後に使用を開始するには、ビジネス指標エディター からエクスポートされたビジネス指標モデルをデプロイする必要があります。

インストール・チェックリスト

WebSphere Business Monitor のインストールでは、多くの手順を実行します。以下のインストール・チェックリストに、WebSphere Business Monitor のコンポーネントのインストールを実行するための主要な手順を要約します。

チェックリストを読み、実行する必要がある手順を把握してからインストールを開始してください。このチェックリストのコピーを印刷しておき、WebSphere Business Monitor をインストールする際に、実行した手順にチェック・マークを付けていくことができます。これらのチェックリストには、各コンポーネントをインストールするための基本的な手順が含まれています。

1. システムおよびソフトウェア前提条件がインストールされていることを確認します。

システム前提条件

WebSphere Business Monitor のインストールに必要なシステム前提条件

| システム | プラットフォーム |
|--------------|--|
| Windows サーバー | <ul style="list-style-type: none">• Windows 2000 Server、Service Pack 4• Windows 2000 Advanced Server、Service Pack 4• Windows Server 2003 Enterprise Edition• Windows Server 2003 Standard Edition |
| AIX サーバー | <ul style="list-style-type: none">• AIX 5.2、メンテナンス・レベル 5200-05• AIX 5.3、メンテナンス・レベル 5300-02 および APAR IY58143 |

ソフトウェア前提条件

WebSphere Business Monitor ランチパッドの実行、および WebSphere Business Monitor コンポーネントのインストールに必要なソフトウェア前提条件

| チェック | 前提条件 |
|------|---|
| | Java™ 1.4.2 (ランチパッドの実行に必須) |
| | IBM DB2 Database Server 8.2.1 |
| | IBM DB2 Cube Views 8.2.1 |
| | IBM WebSphere Process Server 6.0 |
| | IBM WebSphere Application Server ND 6.0.2.3 |
| | IBM WebSphere Portal 5.1.0.2 |
| | IBM DB2 Alphablox 8.3 |

2. 各シナリオを確認して、コンポーネントのインストール方法を選択する参考にしてください。

インストール・シナリオ

最初のシナリオ

| チェック | マシン | インストールするコンポーネント |
|------|-------|---|
| | マシン 1 | <ul style="list-style-type: none">・ モニター・サーバー・ 状態データベース・ リポジトリ・データベース |
| | マシン 2 | <ul style="list-style-type: none">・ モニター・クライアント (ダッシュボード)・ ランタイム・データベース・ ヒストリー・データベース |

2 番目のシナリオ

| チェック | マシン | インストールするコンポーネント |
|------|-------|---|
| | マシン 1 | <ul style="list-style-type: none">・ リポジトリ・データベース・ 状態データベース・ ランタイム・データベース・ ヒストリー・データベース |
| | マシン 2 | <ul style="list-style-type: none">・ モニター・サーバー |
| | マシン 3 | <ul style="list-style-type: none">・ モニター・クライアント |

3 番目のシナリオ

| チェック | マシン | インストールするコンポーネント |
|------|-------|--|
| | マシン 1 | <ul style="list-style-type: none">・ リポジトリ・データベース |
| | マシン 2 | <ul style="list-style-type: none">・ 状態データベース・ ランタイム・データベース・ ヒストリー・データベース |
| | マシン 3 | <ul style="list-style-type: none">・ モニター・サーバー |
| | マシン 4 | <ul style="list-style-type: none">・ モニター・クライアント |

3. 完了したインストール手順にチェック・マークを付けます。

インストール・チェックリスト

WebSphere Business Monitor のインストール手順のチェックリスト

| チェック | コンポーネント | 手順 | 注釈 |
|------|--------------|---|--|
| | データベース作成 | <ol style="list-style-type: none">1. IBM DB2 Database Server をインストールします。2. WebSphere Business Monitor データベースを作成します。以下のいずれかを使用できます。<ol style="list-style-type: none">a. 自動データベース作成用のランチパッドb. または、手動作成用のデータベース作成スクリプト | |
| | リポジトリ・データベース | | 他のデータベースの作成前、または同時に作成する必要があります。 |
| | 状態データベース | | リポジトリ・データベースが、同じマシンにカタログまたは作成されている必要があります。 |
| | ランタイム・データベース | | リポジトリ・データベースが、同じマシンにカタログまたは作成されている必要があります。 |
| | ヒストリー・データベース | | リポジトリ・データベースが、同じマシンにカタログまたは作成されている必要があります。 |

WebSphere Business Monitor のインストール手順のチェックリスト

| チェック | コンポーネント | 手順 | 注釈 |
|------|------------------------------------|--|----|
| | モニター・サーバー | <ol style="list-style-type: none"> 1. IBM DB2 Database Server をインストールします。 2. WebSphere Process Server バージョン 6.0 をインストールします。 3. リポジトリ・データベースがモニター・サーバー・マシンに存在していない場合、リポジトリ・データベースをこのマシンにカタログします。 4. 状態およびランタイム・データベースが同じマシンに存在していない場合、これらのデータベースをカタログします。 5. ランチパッド・ウィザードを使用してモニター・サーバーをインストールします。 | |
| | Action Manager がインストールされたモニター・サーバー | | |
| | モニター・サーバー管理コンソール | | |

WebSphere Business Monitor のインストール手順のチェックリスト

| チェック | コンポーネント | 手順 | 注釈 |
|------|-------------|---|----|
| | モニター・クライアント | <ol style="list-style-type: none"> 1. IBM DB2 Database Server をインストールします。 2. DB2 Cube Views をインストールします。 3. WebSphere Application Server ND バージョン 6.0 をインストールします。 4. WebSphere Portal バージョン 5.1 をインストールします。 5. IBM DB2 Alphablox をインストールします。 6. リポジトリ・データベースがダッシュボード・マシンに存在しない場合、リポジトリ・データベースをこのマシンにカタログします。 7. ランタイムおよびヒストリー・データベースが同じマシンに存在していない場合、これらのデータベースをカタログします。 8. ランチパッド・ウィザードを使用してダッシュボード・クライアントをインストールします。 | |

4. 正常にインストールされたことを確認します。

インストール後のチェックリスト

WebSphere Business Monitor インストール後の手順のチェックリスト

| チェック | 手順 |
|------|---|
| | <p>以下のすべてのサーバーが停止していることを確認してください。</p> <ul style="list-style-type: none"> • IBM WebSphere Process Server バージョン 6.0 • IBM WebSphere Application Server ND バージョン 6.0 • IBM WebSphere Portal バージョン 5.1 |
| | 上記のサーバーを始動します。 |

| チェック | 手順 |
|------|--|
| | <p>モニター・サーバーが正常にインストールされたことを確認します。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. ユーザー ID として <code>admin</code> を使用し、パスワードを指定せずに IBM WebSphere Process Server にログインします。 2. 「アプリケーション」>「エンタープライズ・アプリケーション」をクリックします。インストール済みアプリケーション・テーブルに <code>IBM_WB_MONITOR_SERVER</code> および <code>IBM_WB_ACTIONMANAGER</code> がインストールされている場合、モニター・サーバーは正常にインストールされています。 |
| | <p>ダッシュボード・クライアントが正常にインストールされたことを確認します。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. ユーザー ID <code>wpsadmin</code>、パスワード <code>wpsadmin</code> を使用して、IBM WebSphere Portal にログインします。 2. 「管理」>「ポートレット管理 (Portlet Management)」>「Web モジュール」をクリックします。<code>dashboardclient.war</code> がインストール済み Web モジュールである場合、ダッシュボード・クライアントは正常にインストールされています。 |

インストールのトラブルシューティング

WebSphere Business Monitor のインストール中に問題が発生する可能性があります。インストールの問題をトラブルシューティングする方法を以下に示します。

AIX プラットフォームでのランチパッド親ディレクトリーへの許可の割り当て

AIX プラットフォームでは、ランチパッドの親ディレクトリーに読み取りおよび実行許可を割り当てる必要があります。

AIX プラットフォームでは、ランチパッドのダウンロード可能バージョンは `.tar` ファイルとして配送されます。`/home/cdImage` などのディレクトリーに `.tar` ファイルをダウンロードしてから、`tar xvf monitor.tar` を実行して `.tar` ファイルを解凍します。`.tar` ファイルが抽出される親ディレクトリーには、すべてのユーザーに対する読み取りおよび実行許可が必要です。この例では、`/home` と `/home/cdImage` の両方のディレクトリーにそれらの許可が必要です。許可を設定するコマンドは、**`chmod 755`** です。親ディレクトリーに許可が設定されていない場合、ランチパッドはリポジトリ・データベースに書き込めません。`launchpad-monitor.log` に、`"repos command finished rc=126"`と書き込まれています。

WebSphere Business Monitor インストール・ログ・ファイルのロケーション

インストールのエラーと問題の理由を識別するには、WebSphere Business Monitor のランチパッドとインストーラーで使用されている以下のログ・ファイルを調べます。

ランチパッドまたは前提条件のインストールの問題の場合は、Windows プラットフォームでは %TEMP%\%launchpad-monitor.log、AIX プラットフォームでは /tmp/launchpad-monitor.log を参照します。

WebSphere Business Monitor のデータベース作成で問題がある場合は、<Monitor_Home>%install%\logs\%db2Create<DBName>Out.log を参照します。<DBName>は、状態データベースの場合は *State* など、データベース・タイプです。

モニター・サーバー・コンポーネントのインストールで問題がある場合は、<Monitor_Home>%install%\logs%にある MonitorAppInstallOut.log、MonitorAppInstallErr.log、MonitorConsoleInstallOut.log、および MonitorConsoleInstallErr.log を参照します。

ダッシュボード・クライアントのインストールに問題がある場合は、<Monitor_Home>%install%\logs%にある DashboardClientDeployOut.log、DashboardClientDeployErr.log、および Deploy_WBIMon.log を参照します。

インストーラーの問題の場合は、Windows プラットフォームでは %TEMP%\%WbimInstall.log、AIX プラットフォームでは /tmp/WbimInstall.log を参照します。

アンインストーラーの問題については、Windows プラットフォームでは %TEMP%\%WbimUninstall.log、AIX プラットフォームでは /tmp/WbimUninstall.log を参照してください。

WebSphere Portal インストールとホスト・ショート・ネームの長さ

WebSphere Portal PTF インストール中のエラーを避けるために、DB2 Universal Database のインストールの前に、ホスト・ショート・ネームを 8 文字に制限します。

ホスト・ショート・ネームを変更する必要がある場合は、それを変更し、マシンをリブートしてから、DB2 をインストールする必要があります。

長いホスト・ショート・ネームを使用すると、WebSphere Portal インストールのインストール中に次の例外が発生しました: java.io.IOException。システムが指定されたファイルを検出できないか、またはファイル名が長すぎます。WebSphere Application Server プロファイル作成は、プロファイル名、ホスト・ショート・ネーム、セル名、ノード名、およびプロファイル・ルート・ディレクトリーの各名前を使用してプロファイルを作成します。

これらの名前の長さを制限すると、プロファイルのディレクトリー・パスが、完全修飾パスで Microsoft® の制限である 256 文字以下に保持されます。DB2 は、その構成中にホスト名を使用します。DB2 のインストール後にホスト名が変更されると、DB2 コマンドを実行しようとする次のエラーが発生します: SQL6031N db2nodes.cfg ファイルの行番号 "1" でエラーがありました。理由コード "10"。

長いホスト名を使用したダッシュボード・クライアントのインストール

ランチパッドを使用して Windows プラットフォームにダッシュボード・クライアントをインストールするには、Portal PTF 5102 を正常にインストールするために、短いホスト名の最大長が 9 文字である必要があります。

ただし、9 文字より長いホスト・ショート・ネームを使用する必要がある場合は、WebSphere Application Server のサイレント・インストールを手動で実行します。セル名のフォーマットをホスト・ショート・ネームのみを含むように変更することにより、最長 19 文字のホスト・ショート・ネームに対応できます。サイレント・インストールがプロファイル・オプション・ファイルを使用して実行されるときに、ユーザーはセル名を構成できます。

注: ダッシュボード・クライアントの残りの前提条件はすべて、ランチパッドを使用してインストールできます。

WebSphere Application Server のサイレント・インストールを手動で実行するには、以下の手順をすべて実行します。

1. `<Monitor_Install_Root>%WAS%WAS%responsefile.nd.txt` ファイルを一時ディレクトリ `<Temp_Dir>` (例えば、`c:%temp`) にコピーします。`<Temp_Dir>` は完全修飾パスである必要があります。
2. `responsefile.nd.txt` のコピーを編集し、以下の行をこれらの値に変更します。

```
-W silentInstallLicenseAcceptance.value="true"
```

```
-P wasProductBean.installLocation="C:%IBM%WebSphere%AppServer"
```

```
-W profileUpdateWarningPanelWizardBean.active="false"
```

```
-P samplesProductFeatureBean.active="false"
```

```
-W pctresponsefilelocationqueryactionInstallWizardBean.fileLocation =  
"<Temp_Dir>/responsefile.pct.NDstandAloneProfile.txt"
```

3. `<Monitor_Install_Root>%WAS%WAS%responsefile.pct.NDstandAloneProfile.txt` ファイルを一時ディレクトリ `<Temp_Dir>` にコピーします。

4. `responsefile.pct.NDstandAloneProfile.txt` のコピーを編集し、以下の行をこれらの値に変更します。

```
-W profileNamepanelInstallWizardBean.profileName="dashboard"
```

```
-W profileNamepanelInstallWizardBean.isDefault="true"
```

```
-P installLocation="C:%IBM%WebSphere%AppServer%profiles%dashboard"
```

```
-W nodehostnamepanelInstallWizardBean.nodeName="Node01"
```

```
-W nodehostnamepanelInstallWizardBean.hostName="Your host short name up  
to 19 characters in length"
```

```
-W setnondmgrcellnameinglobalconstantsInstallWizardBean.value="Your host  
short name - please uncomment this line"
```

```
-W winservicepanelInstallWizardBean.winServiceQuery="true"
```

```
-W winservicepanelInstallWizardBean.accountType="localsystem"
```

```
-W winservicepanelInstallWizardBean.userName="YOUR_USER_NAME - Fill in  
this value"
```

```
-W winservicepanelInstallWizardBean.password="YOUR_PASSWORD - Fill in  
this value"
```

5. コマンド・ウィンドウをオープンし、<Monitor_Install_Root>¥WAS¥WAS¥ にディレクトリーを変更します。
6. 次の呼び出しを使用して、WebSphere Application Server のサイレント・インストールを実行します。

```
install -options "<Temp_Dir>¥responsefile.nd.txt" -silent
```

WebSphere Application Server の停止時または開始時のエラーが原因で、モニター・サーバーのインストールが失敗する

モニター・サーバーのインストール・プロセスでは、インストール中に WebSphere Application Server の停止と開始を数回行う必要があります。 WebSphere Application Server が正常に停止しない場合、インストール・プロセスは失敗します。

この問題を確認するには、

<WebSphere_Process_Server_Home>¥profiles¥monitor¥logs¥server1¥ stopServer.log または SystemOut.log で次のエラーを検索します。

WsServerStop E ADMU3007E: 例外

com.ibm.websphere.management.exception.ConnectorException: ADMC0016E: システムは、ホスト <Host_Name> に接続する SOAP コネクターをポート <Port_Number> に作成できません (WsServerStop E ADMU3007E: Exception

com.ibm.websphere.management.exception.ConnectorException: ADMC0016E: The system cannot create a SOAP connector to connect to host <Host_Name> at port <Port_Number>)

このエラー、またはサーバーの停止に関連したその他のエラーが発生した場合は、WebSphere Application Server バージョン 6.0 Information Center でトラブルシューティング情報を参照してください。

問題の解決後、モニター・サーバーのアンインストールと再インストールが必要です。

AIX と CD-ROM デバイスのアクティビティー

AIX システムで CD から WebSphere Business Monitor 前提条件をインストールしている場合は、前提条件 CD をロードする前に、CD-ROM デバイスがすべてのアクティビティーを停止していることを確認する必要があります。

CD-ROM デバイスのアクティビティー・ライトが消えたままになっていることを確認してから、「**CD をロード (Load CD)**」ウィンドウの「**OK**」をクリックします。

<Prerequisite_CD_Name> というラベルの CD を CD-ROM ドライブに挿入します。

CD-ROM デバイスが非アクティブになる前に「**OK**」をクリックすると、情報ボックスが表示されます。情報ボックスには次のメッセージが表示されます。

<Prerequisite_CD_Name> というラベルの CD が、CD ドライブに見つかりませんでした (現行 CD は <CD mount point> にマウントされています)。正しい CD を CD-ROM ドライブに挿入して、この前提条件のインストールを再始動してください。

その他のデータベースとコンポーネントのインストールに使用されるリポジトリ・データベース・テーブル

ランチパッドを使用した WebSphere Business Monitor のコンポーネントのインストール中、および WebSphere Business Monitor データベースの作成中に、リポジトリ・データベースに情報が書き込まれます。

更新される機能とテーブルは以下のとおりです。

表 2.

| データベースまたはコンポーネント名 | リポジトリ・データベース・テーブル名 |
|-------------------|--------------------------|
| 状態データベース | Database_Characteristics |
| ランタイム・データベース | Database_Characteristics |
| ヒストリー・データベース | Database_Characteristics |
| | Property |
| ダッシュボード・クライアント | Monitor_Client |

テーブルが更新されていない場合:

1. `launchpad-monitor.log` ファイルを確認します。
2. 「`repos command0`」を検索します。
3. エラーがないか調べます。

潜在的な問題:

- DB2 のインストール後にランチパッドを再始動する必要があります。(詳しくは、43 ページの『インストール後の DB2 の再始動』を参照してください。)
- AIX プラットフォームの場合、<Parent_Dir>/CDImageAIX/jvm/jre/bin/java への絶対パスに "755" の許可が必要です。
- WebSphere Business Monitor の機能のインストールを試みる前に、DB2 が開始されていることを確認します。DB2 を開始するには、`db2start` コマンドを使用します。

インストール後、ランチパッドのチェック・ボックスは選択済みで使用不可になっている必要がある

WebSphere Business Monitor インストーラーが選択されたコンポーネントのインストールを完了し、ランチパッド・メイン・ウィンドウに戻ったときに、コンポーネントまたはデータベースの名前の横のチェック・ボックスは、選択済みで使用不可になっている必要があります。

チェック・ボックスがまだ使用可能な場合は、WebSphere Business Monitor インストール・ディレクトリーの下に *VpdExport* フォルダーが存在することを確認してください。*VpdExport* フォルダーが存在しない場合は、インストールされた WebSphere Business Monitor のコンポーネントをすべてアンインストールし、*vpd.script* ファイルを削除する必要があります。

インストール後の DB2 の再始動

DB2 は、インストール後に、ランチパッドを使用して再始動する必要があります。

Windows プラットフォームの場合:

1. ランチパッド、およびすべてのコマンド・ウィンドウや Internet Explorer ウィンドウをクローズします。
2. WebSphere Business Monitor の機能のインストールを試みる前に、DB2 が開始されていることを確認します。DB2 を開始するには、"db2start"コマンドを使用します。
3. ランチパッドを再始動し、残りのインストールを継続します。

AIX プラットフォームの場合:

1. ランチパッドを終了します。
2. */profile* を作成し、次の行を追加します。*/home/db2inst1/sqllib/db2profile* (ピリオドと最初のスラッシュの間にスペースがあることに注意してください。)
3. */dtprofile* の最後の行のコメントを外します。
4. ログアウトします。
5. 再度ログインします。
6. DB2 を開始するには、"db2start"コマンドを使用します。
7. ランチパッドを再始動し、残りのインストールを継続します。

WebSphere Business Monitor データベースは正常に作成されているが、データベース・テーブルは作成されていない

WebSphere Business Monitor のインストール中に、データベースは正常に作成されましたが、データベース・テーブルは作成されませんでした。

このシチュエーションは、WebSphere Business Monitor インストーラーの「データベース作成 (Database Creation)」パネルで、データベースのユーザー ID またはパスワードを誤って入力した場合に発生する可能性があります。

<Monitor_Install_Dir>\install\logs ディレクトリーで、*db2Create****Out.log* ファイルを検索します。"****"はデータベース・タイプ (状態、ランタイム、ヒストリー、またはリポジトリー) です。次のメッセージを検索します。

"SQL30082N 接続を確立する試みは、セキュリティの理由 "24" ("USERNAME AND/OR PASSWORD INVALID") で正常に実行されていません。"

このエラーが発生した場合は、データベースをアンインストールしてから有効なユーザー ID とパスワードを使用して再インストールします。

リモート・デスクトップ使用時にインストールが失敗する

Windows オペレーティング・システムでターミナル・サービスのリモート・デスクトップを使用して WebSphere Business Monitor ランチパッドを実行し、WebSphere Application Server、WebSphere Process Server、または WebSphere Portal をインストールできます。インストールの完了時に、インストールが失敗して WebSphere Business Monitor はインストールされていないとランチパッドが表示した場合は、Windows が vpd.properties ファイルを正しいロケーションに配置していることを確認します。

vpd.properties ファイルは InstallShield がインストール済みソフトウェアを登録するロケーションです。Windows システムの場合、このファイルは通常 %WINDIR% ディレクトリー (C:\WINDOWS または C:\WINNT) に配置されています。

vpd.properties ファイルが %USERPROFILE%\WINDOWS に配置されている場合もあります。%USERPROFILE% は通常 C:\Documents and Settings<User_Name> にあります。インストール中に %WINDIR% の vpd.properties ファイルが作成または更新されなかった場合は、ランチパッドはインストール済み製品を検索できません。

この問題を修正するには、ランチパッドをシャットダウンし、作成された vpd.properties ファイルを見つけ、それを %WINDIR% にコピーするか、または既存の vpd.properties ファイルに付加します。インストール・マシンでターミナル・サービスが実行される場合は、ランチパッドを実行する前に、Windows コマンド・プロンプトからコマンド change user /install を実行します。このアクションにより、Windows システムが vpd.properties を %USERPROFILE% ディレクトリーにリダイレクトしないようになります。

ランチパッド・インストーラーがアクティビティを中断する

モニター・サーバーまたはダッシュボード・クライアントのいずれかのコンポーネントのインストール中に、WebSphere Business Monitor ランチパッド・インストーラーがオペレーティング・システムを中断、またはロックしているように見える場合があります。インストールにはリモート・データベースが含まれています。

この問題にはいくつかの理由があります。考えられる原因の 1 つはファイアウォールです。ほとんどの場合、インストール中はファイアウォールを使用不可にすることにより問題が解決します。ただし、ファイアウォールの中には、使用不可の場合でも問題を発生させるものもあります。この場合は、インストール中はファイアウォールを完全にアンインストールすることで問題を迂回できる可能性があります。

注: Checkpoint Integrity Flex ファイアウォール (v6.0.116) は、Windows Server 2003 をサポートしていません。詳しくは、Checkpoint Integrity Web サイト <http://www.checkpoint.com/products/integrity/index.html> を参照してください。

プロファイル、セル、ノード、およびサーバーの各フィールドが事前に入力されていない

WebSphere Business Monitor インストーラーで、「**WebSphere Application Server 構成 (WebSphere Application Server Configuration)**」パネルおよび「**WebSphere Portal 構成 (WebSphere Portal Configuration)**」パネルで、プロファイル、セル、ノード、およびサーバー情報が事前に入力されている必要があります。

これらのフィールドが事前に入力されていないか、または間違った情報を含んでいる場合は、`%TEMP%` ディレクトリーの `PCNS.properties` ファイルを確認します。`PCNS.properties` ファイルが存在しない場合は、`launchpad-monitor.log` ファイルを確認します。 "WASpcnsInfo"を検索して、エラーがないか調べます。

特記事項および商標

特記事項

本書に記載の製品、サービス、または機能が日本においては提供されていない場合があります。日本で利用可能な製品、サービス、および機能については、日本 IBM の営業担当員にお尋ねください。本書で IBM 製品、プログラム、またはサービスに言及していても、その IBM 製品、プログラム、またはサービスのみが使用可能であることを意味するものではありません。これらに代えて、IBM の知的所有権を侵害することのない、機能的に同等の製品、プログラム、またはサービスを使用することができます。ただし、IBM 以外の製品とプログラムの操作またはサービスの評価および検証は、お客様の責任で行っていただきます。

IBM は、本書に記載されている内容に関して特許権 (特許出願中のものを含む) を保有している場合があります。本書の提供は、お客様にこれらの特許権について実施権を許諾することを意味するものではありません。実施権についてのお問い合わせは、書面にて下記宛先にお送りください。

〒106-0032

東京都港区六本木 3-2-31

IBM World Trade Asia Corporation
Licensing

以下の保証は、国または地域の法律に沿わない場合は、適用されません。

IBM およびその直接または間接の子会社は、本書を特定物として現存するままの状態を提供し、商品性の保証、特定目的適合性の保証および法律上の瑕疵担保責任を含むすべての明示もしくは黙示の保証責任を負わないものとします。国または地域によっては、法律の強行規定により、保証責任の制限が禁じられる場合、強行規定の制限を受けるものとします。

この情報には、技術的に不適切な記述や誤植を含む場合があります。本書は定期的に見直され、必要な変更は本書の次版に組み込まれます。IBM は予告なしに、随時、この文書に記載されている製品またはプログラムに対して、改良または変更を行うことがあります。

本書において IBM 以外の Web サイトに言及している場合がありますが、便宜のため記載しただけであり、決してそれらの Web サイトを推奨するものではありません。それらの Web サイトにある資料は、この IBM 製品の資料の一部ではありません。それらの Web サイトは、お客様の責任でご使用ください。

IBM は、お客様が提供するいかなる情報も、お客様に対してなんら義務も負うことのない、自ら適切と信ずる方法で、使用もしくは配布することができるものとします。

本プログラムのライセンス保持者で、(i) 独自に作成したプログラムとその他のプログラム (本プログラムを含む) との間での情報交換、および (ii) 交換された情報の相互利用を可能にすることを目的として、本プログラムに関する情報を必要とする方は、下記に連絡してください。

*Lab Director
IBM RTP Laboratory
3039 Cornwallis Road
P.O. BOX 12195
Raleigh, NC 27709-2195
U.S.A*

本プログラムに関する上記の情報は、適切な使用条件の下で使用することができますが、有償の場合もあります。

本書で説明されているライセンス・プログラムまたはその他のライセンス資料は、IBM 所定のプログラム契約の契約条項、IBM プログラムのご使用条件、またはそれと同等の条項に基づいて、IBM より提供されます。

この文書に含まれるいかなるパフォーマンス・データも、管理環境下で決定されたものです。そのため、他の操作環境で得られた結果は、異なる可能性があります。一部の測定が、開発レベルのシステムで行われた可能性があります。その測定値が、一般に利用可能なシステムのもと同じである保証はありません。さらに、一部の測定値が、推定値である可能性があります。実際の結果は、異なる可能性があります。お客様は、お客様の特定の環境に適したデータを確かめる必要があります。

IBM 以外の製品に関する情報は、その製品の供給者、出版物、もしくはその他の公に利用可能なソースから入手したものです。IBM は、それらの製品のテストは行っておりません。したがって、他社製品に関する実行性、互換性、またはその他の要求については確証できません。IBM 以外の製品の性能に関する質問は、それらの製品の供給者をお願いします。

本書には、日常の業務処理で用いられるデータや報告書の例が含まれています。より具体性を与えるために、それらの例には、個人、企業、ブランド、あるいは製品などの名前が含まれている場合があります。これらの名称はすべて架空のものであり、名称や住所が類似する企業が実在しているとしても、それは偶然にすぎません。

IBM の将来の方向または意向に関する記述については、予告なしに変更または撤回される場合があります、単に目標を示しているものです。

著作権使用許諾

本書には、様々なオペレーティング・プラットフォームでのプログラミング手法を例示するサンプル・アプリケーション・プログラムがソース言語で掲載されています。お客様は、サンプル・プログラムが書かれているオペレーティング・プラットフォームのアプリケーション・プログラミング・インターフェースに準拠したアプリケーション・プログラムの開発、使用、販売、配布を目的として、いかなる形式においても、IBM に対価を支払うことなくこれを複製し、改変し、配布することができます。このサンプル・プログラムは、あらゆる条件下における完全なテストを経ていません。従って IBM は、これらのサンプル・プログラムについて信頼性、利便性もしくは機能性があることをほめめかしたり、保証することはできません。

プログラミング・インターフェース情報

プログラミング・インターフェース情報は、プログラムを使用してアプリケーション・ソフトウェアを作成する際に役立ちます。

一般使用プログラミング・インターフェースにより、お客様はこのプログラム・ツール・サービスを含むアプリケーション・ソフトウェアを書くことができます。

ただし、この情報には、診断、修正、および調整情報が含まれている場合があります。診断、修正、調整情報は、お客様のアプリケーション・ソフトウェアのデバッグ支援のために提供されています。

警告: 診断、修正、調整情報は、変更される場合がありますので、プログラミング・インターフェースとしては使用しないでください。

商標

以下は、IBM Corporation の商標です。

IBM

IBM (logo)

WebSphere

DB2

Tivoli

MQSeries

AIX

z/OS

Microsoft、Windows、Windows NT、および Windows ロゴは、Microsoft Corporation の米国およびその他の国における商標です。

Intel、および Pentium は、Intel Corporation の米国およびその他の国における商標です。

UNIX は、The Open Group の米国およびその他の国における登録商標です。

Linux は、Linus Torvalds の米国およびその他の国における商標です。

Java およびすべての Java 関連の商標およびロゴは、Sun Microsystems, Inc. の米国およびその他の国における商標または登録商標です。

他の会社名、製品名およびサービス名等はそれぞれ各社の商標です。